

HIV迅速検査会  
MaQ

@ PLuS+ FINAL

Mobile and Quick "HIV Testing" @ PLuS+ FINAL

報告書

厚生労働省科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」  
首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした  
HIV抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究  
研究リーダー・市川 誠一

# HIV 迅速検査会

# MaQ

## @ PLuS+ FINAL

Mobile and Quick “HIV Testing” @PLuS+ FINAL

## 報告書

エイズの予防と共生をテーマにした野外イベント  
『PLuS+ FINAL ～For The Next Challenge～』における  
HIV 迅速検査会の実施について

MASH大阪  
厚生労働省エイズ予防のための戦略研究

協力機関：大阪市保健所

大阪府立公衆衛生研究所

特定非営利活動法人 CHARM

特定非営利活動法人 関西エイズ対策協議会

そねざき古林診療所

## 目次

実施に至る背景	1
PLuS+ FINAL 全体概要	2
HIV 迅速検査会 『MaQ』 @ PLuS+ FINAL 実施内容	
目的・対象・特色	3
留意点・実施概要	4
各パートの役割と手順	6
実施結果1「受検者について」	13
実施結果2「スタッフについて」	19
考察・まとめ	22
添付資料	
添付資料1：検査案内所で配布した資材セット（一式）	23
添付資料2：受検希望者への事前配布資料「今日の検査を受検希望される方へ」	24
添付資料3：リスクスクリーニング用「確認用紙」	26
添付資料4：「確認用紙」を用いてリスクスクリーニングをする時の判断基準	27
添付資料5：検査結果引換証	30
添付資料6：事前説明資料	31
添付資料7：感想アンケート用紙	34
添付資料8：結果お知らせ時に渡すパンフレット	36
添付資料9：紹介状	38
添付資料10：受診回答書	39
添付資料11：結果通知、カウンセリング担当者マニュアル	40

## 実施に至る背景

大阪府におけるエイズ発症報告数は年々増加しており、感染者と患者を合わせた全報告数におけるエイズ発症報告数の割合も近年増加している。一方で、MSM における HIV 検査の生涯受検率は増加（約 50～70%）し、過去一年間の受検率は横ばい（30～40%）である。2009 年 9 月までの土曜日常設 HIV 検査における MSM 受検者の割合も、堂山近辺で実施していた期間（20%）に比べて難波での実施期間（12%）は低くなっていた。MSM における受検経験率は一定率に至っている状況がある一方で、検査ニーズがありながら、受検にいたっていない層が存在することが推測され、受検環境に関して既存の検査相談場面に新たな工夫を加える必要があると考えた。

このような状況のもと、特に検査ニーズがありながら受検にいたっていない可能性のある層に対して、どのような検査相談機会を提供するかについて、MASH 大阪、大阪市保健所、大阪府立公衆衛生研究所、(特)CHARM のメンバーを中心に、そねざき古林診療所、(特)関西エイズ対策協議会とも連携しながら準備検討会議を重ねた。

その結果、HIV 感染の可能性の高い状況にありながら、わざわざ HIV 検査には行かない人に受検してもらう機会を創出するために、

- 1) MSM が多く集まるイベント PLuS+の開催に合わせて実施すること（対象者のところに向いていく検査相談）
- 2) 迅速検査を導入すること、確認検査を当日中に行なうこと
- 3) 予算・時間的に限界設定が必要な中、対象者とする人により多く受検してもらうために、事前広報は行わないこと、およびリスクスクリーニングを導入すること
- 4) 実施する前提として相談支援環境を十分に準備すること

などを決定した。

また検査会場の設定に関して、

- ア) HIV に対して特別視や匿秘しないことを提案するためにオープンな検査会として、イベント会場で採血をすること
- イ) 要確認検査結果を受け取った人にとって、結果を知った直後に（確定ではなく確認検査待ちの状態）イベントに来ている人の中に晒されることに配慮し、別会場（隣接会場）で結果通知を実施することを決定した。

## PLuS+ FINAL 全体概要

### ■コンセプト

エイズや性感染症の問題は、“正しい知識や道徳観”の一方向的な押付けで解決できる問題ではない。お説教や小難しいお勉強は“厄介で面倒くさいもの”として、むしろ人々の関心を遠ざけてしまうおそれがある。

そこで PLuS+では、Edutertainment（エデュターテイメント=Education+Entertainment）の手法を用いた。すなわち、普段あまりエイズおよびその他の性感染症に関して積極的に関心を持っていない人々に対して、“お祭り”の高揚感の中で、エイズ／性感染症に関する情報（Education）と楽しい事（Entertainment）をセットにして提供した。これにより、人々がお祭りを楽しむために来場し、楽しんだ結果として自然に予防啓発と共生のメッセージに触れ、共有されることを目指した。

- ・コミュニティ形成要素として重要で、目に見えるインパクトを持つ“お祭り”を実施する事で、参加者の当事者意識を喚起するとともに、社会的な関心を高揚させ、エイズの予防と共生について、コミュニティレベルでの共通の課題としての意識を醸成することを意図した。
- ・公園という公共のスペースで開催することにより、エイズ問題の存在を顕在化させ、広く社会的な関心を高揚させることを目標とした。

### ■企画概要

名称：PLuS+ FINAL（プラス ファイナル） ～For the Next Challenge～

会期：平成22年10月10日（日）

\*開催前の約1ヶ月間「United PLuS+」として、期間中、様々な関連・協力イベントや企画が、京阪神地域各所で開催された。

会場：メイン会場（扇町公園）／サテライト会場（扇町公園周辺及びミナミの各イベント実施会場）

主催：MASH 大阪／PLuS+実行委員会

共催：大阪市保健所（平成22年度大阪市個別施策層向けエイズ予防啓発事業）

厚生労働省（科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」）

財団法人エイズ予防財団（エイズ対策研究推進事業「研究成果等普及啓発事業」）

内容：メイン会場では、3つのパビリオンと“レディオ・ステーション風”ブースにおいて、展示、トークセッション、ワークショップ、シンポジウム、音楽ライブ、エンターテイメントショーなどを通じてエイズの予防と共生に関するメッセージの発信が行なわれた。また、エイズを含む性感染症（STI）の予防啓発や、HIV陽性者の治療やサポート活動を行なっている団体や当事者団体のブース、それらへの直接的・間接的支援を行っている団体・企業のブースにおいて、それぞれの活動報告や情報・資材の提供を行なった。その他に屋台（模擬店）やフリーマーケットなどもあわせて行ない、エイズを含む性感染症（STI）に関する情報を、参加者が楽しみながら自然に受け取るしかけを会場全体でつくりだした。

### ■実施結果

扇町公園会場への、来場者のべ人数約14,142人であった。来場者の会場内への平均流入頻度は2.24回であったため、扇町公園会場への推定来場者実数は6,320人と推計された。来場者居住地は大阪府59.0%、次いで兵庫県11.7%、京都府6.4%、滋賀県2.8%、奈良県2.4%、和歌山県0.6%・・・その他となっており、来場者の約8割（推計5,056人）が近畿在住者であった。来場者の性自認は、ゲイ（男性同性愛者）57.8%、バイセクシュアル（両性愛者）7.7%、レズビアン（女性同性愛者）2.1%、トランスジェンダー1.5%、ヘテロセクシュアル（異性愛者）13.4%・・・その他となっており、来場者の約7割（推計4,424人）がゲイ・バイセクシュアルであった。

## HIV 迅速検査会『MaQ』 @ PLuS+ FINAL 実施内容

### ●目的

HIV 感染の可能性の高い状況にありながら、わざわざ HIV 検査には行かない（または行けない）人たちへ、「来るのを待っている」のではなく「いる場所に向かう」スタイルでの HIV 検査相談を提供することにより、潜在的 HIV 陽性者の早期受検・早期受診を促進し、発症してから HIV 感染に気付く人を減らす。

### ●対象

HIV 感染の可能性の高い状況にありながら、わざわざ HIV 検査には行かない人（MSM を中心として）

### ●特色

(1) わざわざ HIV 検査には行かない人に対して、受検へのハードルを下げる

ア) **検査に「来るのを待っている」のではなく「いる場所に向かう」**

→ MSM が多く集まるイベント PLuS+ の開催に合わせて会場内で検査会を実施

イ) **迅速検査を導入**

→ 迅速検査を導入して、スクリーニング検査で陰性結果の場合は 1 日で、要確認検査結果の場合は翌日に確認検査結果通知をすることにより 2 日で完結させ、利便性を高める

(2) HIV 感染の可能性の高い状況にある人に受検機会を提供する

ウ) **リスクスクリーニングを導入**

→ 受検希望者に対し「確認用紙」を用いて個別にリスクスクリーニングを実施

エ) **積極的な事前広報をしない**

→ 検査会を大きく広報はせず、PLuS+ FINAL の広報誌でブースのひとつとして簡単に紹介

(3) 十分な支援・相談体制を提供する

オ) **臨時電話相談実施**

→ POSP 電話相談（陽性とわかった人のための電話相談）が、本検査会にあわせ臨時相談を実施  
（10 日 14 時 30 分～21 時、10 月 12 日～16 日 19 時～21 時）

カ) **必要な相談相手にいつでも相談できる体制を準備**

→ 採血会場および結果通知会場に相談員とカウンセラーが待機

→ 確認検査結果通知会場にカウンセラーとソーシャルワーカーが待機

キ) **PLuS+ FINAL に出展するサポート関連ブースとの連携**

→ PLuS+ FINAL に出展するサポート関連ブースに、受検者への情報提供や相談の案内を依頼

(4) 官民の密な協働による事業計画と運営

ク) **それぞれの機関・団体の特性を活かした役割分担**

→ 厚生労働省（科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」）に基づき実施

→ MASH 大阪：主催としてイベント全体を運営し、検査会場を準備

→ そねざき古林診療所：巡回診療として実施

→ (特)CHARM：検査会のオペレーションデザインとスタッフトレーニングを担当

→ 大阪府立公衆衛生研究所：検体分析と感染性廃棄物の処理を担当

→ 大阪市保健所：関係諸機関との調整や結果を受け取りに来なかった人への後日対応を担当

→ 大阪市北区保健福祉センター：迅速検査結果通知会場として休日開館

## ●留意点

- ①主な対象が検査を目的に来る人ではないため、受検者の検査を受けることや結果を受け取ることへの準備性は低いと予想される。また、イベントとしての高揚感と検査のシビアさの間には落差が大きい。そこで、支援・相談・医療のリソースを充実することに努めた。
- ②受検者に検査結果を確実に受け取ってもらえるよう、検査を受けようと思う人へ向けた案内資材を作成して受検受付の前に案内所で配布し、要確認検査結果の場合は、最終結果通知は翌日であることを情報に含めた。また、対象を絞りこむために導入したリスクスクリーニング場面において、結果を受け取ることが可能かということ、およびイベント会場における検査を受検する意思を確認した。
- ③要確認検査や陽性とわかる人のために、地域に存在する支援サービスとの積極的な連携によりサポートを充実させた。準備したサポートには、陽性者向けの電話相談との連携による検査会のための臨時電話相談実施、採血および結果通知会場に相談員待機、陽性結果通知場面にカウンセラーやソーシャルワーカー待機、陽性者向けサービスの資材配布、PLuS+に出展するサポート関連ブースとの連携などが含まれた。なお、陽性とわかる人に紹介する医療機関についても初診時の手続きを含めた情報を収集するとともに紹介させてもらうことを伝えた。
- ④イベント会場の場で要確認検査結果を受け取るとは受検者にとって心理的負担があるということが危惧されたため、結果通知会場をイベント会場の近隣の別会場に設置した。これにより、要確認検査結果を受け取った人の中でイベント会場に戻りたくない人にとっての選択肢を設けることができた。
- ⑤匿名性の保持のため、受検者には受検番号を発行し、その番号にてすべての行程を実施した。HIV 陽性結果の場合も名前や連絡先は一切得ず、紹介状は受検番号にて記載し、受診回答書も同番号での返信を医療機関に依頼した。本人の受診時期や受診医療機関についての決定を尊重し病院への同行はしないこととした。
- ⑥事業評価のため、受検者数・結果受取数・陽性結果数等を把握すること、また医療機関へ受診回答書の返信を依頼し、陽性とわかった人の受診率を把握することとした。受検者には任意記入の感想アンケートへの協力を依頼した。

## ●実施概要

実施日時：2010年10月10日（日）&11日（月祝）

採血 10月10日13:00～19:30（検査案内・検査受付は17:30まで）

スクリーニング検査結果通知 10月10日14:30～20:00（受付は19:30まで）

確認検査 10月10日19:30～24:00

確認検査結果通知 10月11日14:00～21:00（予約制）

検査項目：HIV（匿名検査）

検査方法：迅速スクリーニング検査（イムノクロマトグラフィ法(IC法)、陽性の場合は追加検査として粒子凝集法(PA法)も実施）と確認検査

採血：PLuS+ FINAL 開催会場にブースのひとつとして検査会案内所を配置し、その奥に採血エリアを設置。

結果通知：スクリーニング検査結果は、採血日（10月10日）に隣接する大阪市北区保健福祉センターで通知。

採血から約1時間後にほぼ採血順に「陰性」もしくは「要確認検査」の結果を通知。

スクリーニング検査の結果が「要確認検査」であった場合は、翌日（10月11日）に北区保健福祉センターに隣接する北区民センターにおいて予約時間に「陰性」もしくは「陽性」結果を通知。

予定人数：最大200人（結果通知の可能な人数を基にして、1時間毎に定員上限を設定）

受検費用：受検者は一人PLuS+チケット3枚（=300円）の負担

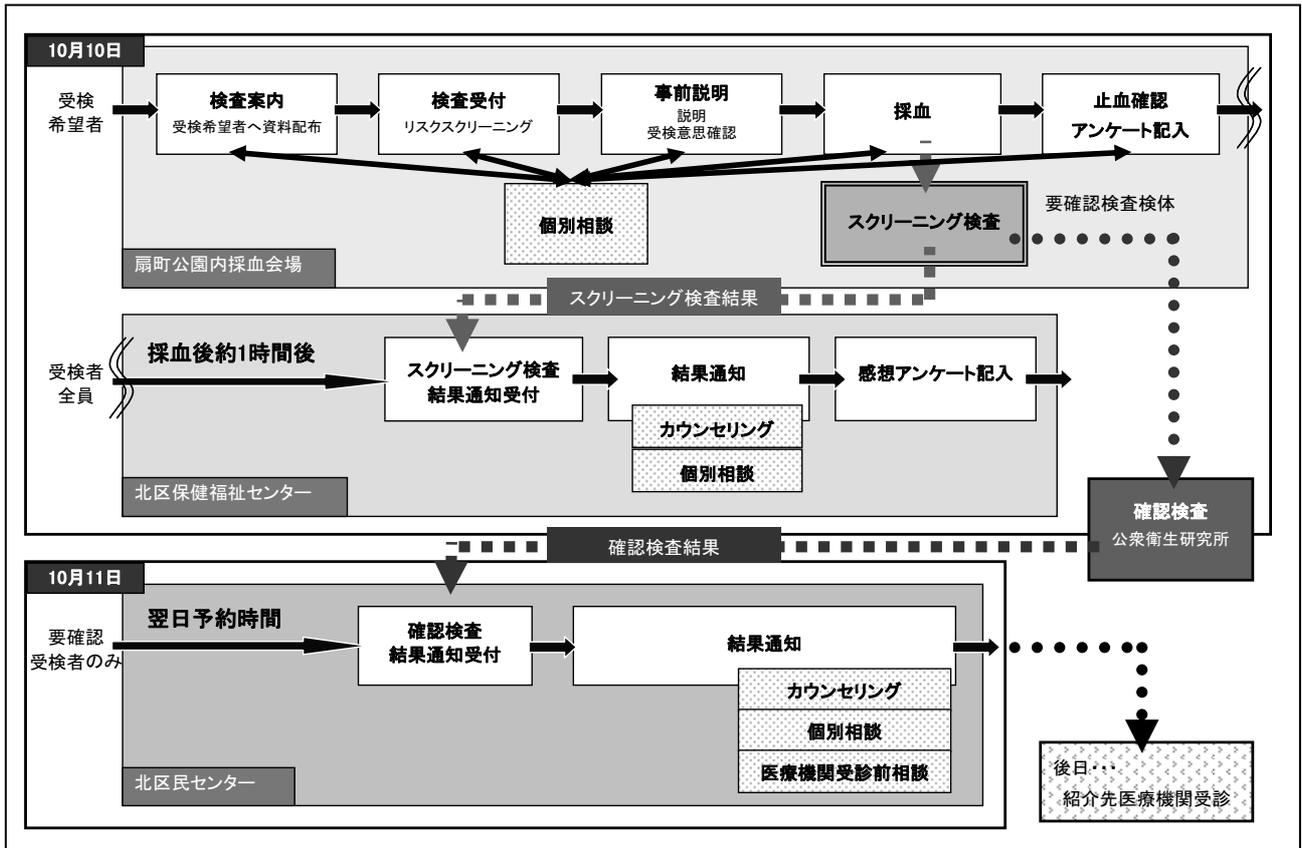


図1：実施運営体制

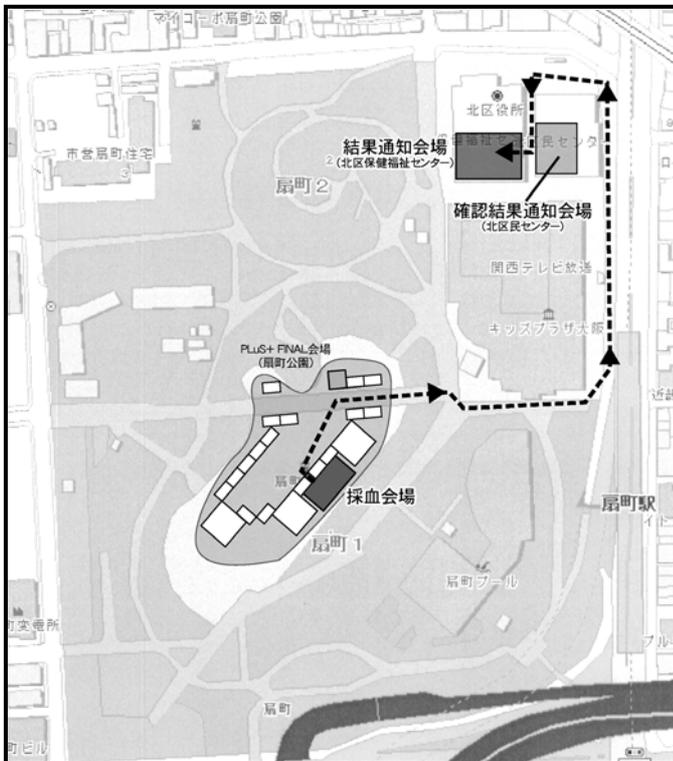


図2：会場全体図

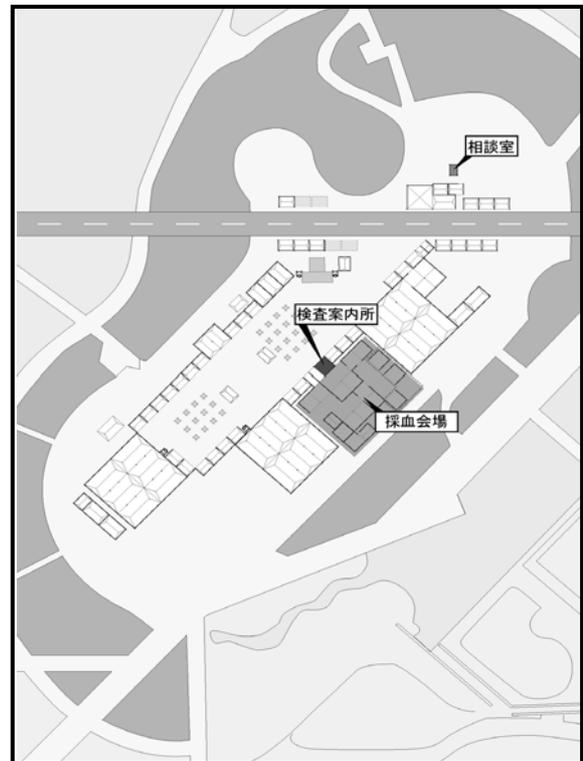


図3：扇町公園内配置図



図4：採血会場図（詳細）

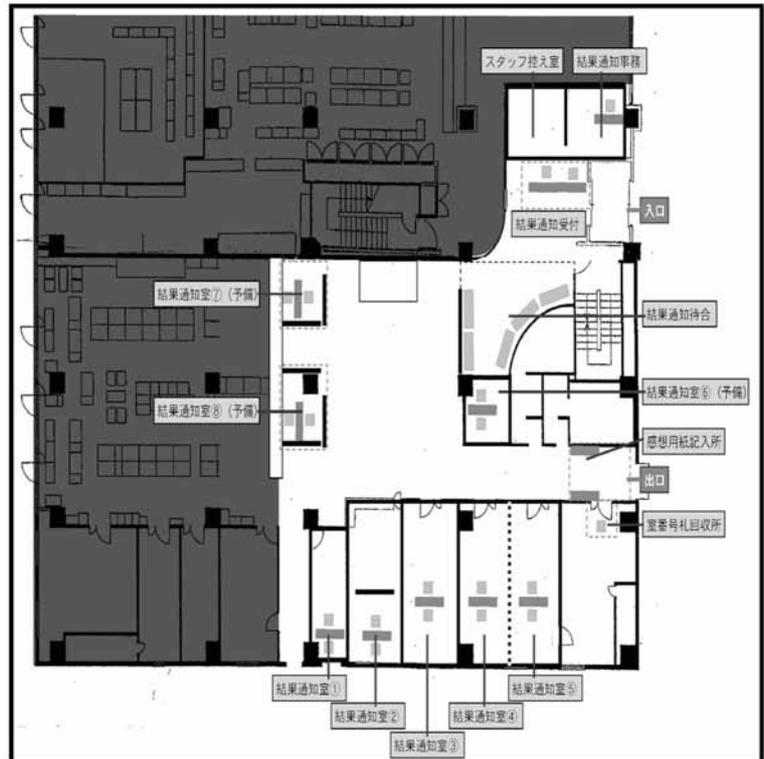


図5：スクリーニング結果通知会場図（詳細）

## ●各パートの役割と手順

### 【採血会場（PLuS+ FINAL メイン会場：扇町公園内）】

#### ■全体統括■

##### 採血会場オペレーション [スタッフ：1 枠]

役割：採血会場全体の管理と緊急時対応をする。

#### ■検査案内所■

##### 検査案内 [スタッフ：1 枠]

役割：検査会の案内をして検査会の資料を配布する。

- ・「今日のHIV迅速検査を受検希望される方へ」を、確認用紙と鉛筆のセットと共に配布する。
- ・検査会はHIVのみの検査であることを伝える（他の性感染症検査にも興味のある人にはクリニック検査の資料を配布）。
- ・「今日のHIV迅速検査を受検希望される方へ」を熟読した上で検査を受けるか判断するよう伝える。
- ・受検を希望する場合には、確認用紙に記入して検査場入口に来るよう伝える。
- ・検査の受付は17時半までであることを伝える。

##### 受検者カウント [スタッフ：1 枠]

役割：結果通知時間を考慮して決定した毎時の受検可能人数をもとに、受検する人数をコントロールする。

- ・検査場入口から検査受付に行く受検者を数える（資料配布人数ではない）。
- ・毎時の受け入れ可能人数を表を参考に把握しておき、その人数を超えないようにコントロールする。時間帯での可能人数を超える人数が来場した場合には、次の時間帯を案内する。
- ・毎時の入り人数、キャンセル人数、受検者数を記録用紙に記入する。

### **チケット回収** [スタッフ：1 枠]

役割：検査場入口に入ってくる受検希望者 1 人あたり PLuS+チケット 3 枚を回収する。

- ・確認用紙の記入が済んでいるかをたずねる。まだの場合は記入してから戻って来るよう伝える。
- ・チケットを持っていない場合、総合受付で購入できることを伝える。

### **チケット払戻** [スタッフ：1 枠]

役割：受検を途中でキャンセルした人にチケット払い戻しの対応をする。

- ・受検キャンセル証明書もしくは検査結果引換証の切り離し部分と引き換えに、PLuS+チケット 3 枚を払い戻す。

## ■採血エリア■

### **検査受付** [スタッフ：5 枠 (5 ブース)]

役割：受検希望者に対し、「確認用紙」を用いて個別にリスクスクリーニングを実施する (1 人につき 5 分程度)。

- ・検査会の対象者であるかを確認する。
- ・本日受検の準備性を確認する。
- ・受検を希望するかを確認する。受検しない場合は、確認用紙と引き換えにキャンセル証明書を渡す。受検希望者には事前説明待合に進むよう案内する。
- ・必要に応じて個別相談を案内する (相談利用票を使用)。

### **事前説明待合** [スタッフ：2 枠]

役割：検査受付を終えた受検希望者に検査セットを渡し、事前説明につなぐ。

- ・受検希望者 5 人を 1 グループとして、順番に待たせる (検査受付に受検希望者が居ない場合は、必ずしも 5 人になるまで待つ必要はない)。
- ・確認用紙と引き換えに、検査セットを番号の若い順から受検者に渡す。(検査セット：結果引換証と番号シール、5 分間アンケート、アンケート用封筒)
- ・1 グループごとに、空いている事前説明のブース番号を案内する。

### **事前説明** [スタッフ：3 枠 (3 ブース)]

役割：1 グループごとに、全受検希望者に対し、採血前に必要な情報を提供し、受検意思の確認をする。

- ・事前説明資材に沿って、1 グループあたり、最大 5 名に 15 分程度で情報提供する。
- ・グループが案内されてきたら、人数に関わらず説明を開始する。
- ・資材の内容の範囲内の質問には回答するが、資材内容以上のことを付け加えない。
- ・グループによって、説明の内容を変えない。
- ・事前説明はあえて、一方通行の情報提供に徹する。相談を希望する人や個人的な話が出てくる場合は、個別相談を紹介する (途中で個別相談希望とわかった場合にも、意思確認の部分までは説明を終了する)。
- ・受検意思の最終確認をする。受検希望者に、結果引換証に受検するか否かの○をつけてもらう。
- ・この段階で受検キャンセル場合は、検査セットを回収し、払い戻しのため結果引換証の切り離し部分を本人に渡す。

### **採血待合** [スタッフ：2 枠]

役割：事前説明を終えた受検者を順番に待たせて、採血につなぐ。

### **採血** [スタッフ：5 枠 (5 ブース)]

役割：受検者番号シールを確認して、採血する。

- ・受検者から採血管用のシールを受け取る。
- ・真空採血管に受検者番号シールを貼付する。
- ・注射針と真空採血管を用いて採血する。
- ・採血管を回収ケースに入れる。

### **検体運搬** [スタッフ：1 枠]

役割：採血後の採血管を採血ブースから随時回収し、分析テントに運ぶ。

- ・採血ブースの後ろの机に設置してある回収ケースをケースごと回収して運ぶ。
- ・分析テントから空のケースを随時受け取り、採血ブースに戻す。
- ・救護室で採血が行われた分についても見逃さないように回収する。

### **止血確認** [スタッフ：1 枠]

役割：受検者が採血後に十分止血するのを確認する。

- ・本人が圧迫止血するのを確認する。
- ・十分に止血が出来ていない場合は、その場で適切な処置をする。

### **アンケート回収** [スタッフ：1 枠]

役割：採血後のアンケート記入場所で、場所の管理と 5 分間アンケート（戦略研究）記入や回収の声かけをする。

- ・受検者にアンケート記入の声かけをする。
- ・記入後は用紙を封筒に入れて、回収箱へ投函するよう伝える。
- ・終了した人に、1 時間後くらい（つまり〇時〇分ごろ）に結果を取りに行くよう伝える。

### **検査分析** [スタッフ：5 枠]

役割：スクリーニング検査を実施し、結果お知らせ票を作成する。

- ・受け取った検体を整理し、血清を遠心分離後、IC 法によるスクリーニング検査を実施する。
- ・スクリーニング検査陽性の場合、追加検査として PA 法も行なう。
- ・スクリーニング検査結果一覧表に結果を記入する。
- ・スクリーニング検査結果お知らせ票を作成し、結果伝達スタッフに渡す準備をして封筒に入れる。
- ・追加検査の結果も陽性で要確認検査となった検体を公衆衛生研究所に運搬し、翌日午後までに確認検査を行なう。

### **結果伝達** [スタッフ：2 枠]

役割：採血会場からスクリーニング結果通知会場へ受検者の結果お知らせ票を運ぶ。

- ・採血会場の分析テントから、結果お知らせ票の入った封筒を受け取る。
- ・封筒をそのまま結果通知会場にいる記録ホルダーに届ける。
- ・採血会場に戻る。上記を繰り返す。

### **個別相談（採血会場）受付** [スタッフ：1 枠]

役割：相談希望者を受け付けて、相談テントに案内する。

- ・相談希望者の受付をし、順番を管理する。

### **個別相談（採血会場）** [スタッフ：1 枠]

役割：相談テントにおいて、相談希望者に対応する。

- ・相談希望者の持参する相談利用票を確認し、検査の流れのどの段階にいる人かを確認して対応する。

## 【スクリーニング結果通知会場（大阪市北区保健福祉センター）】

### オペレーター／記録ホルダー [スタッフ：1 枠]

役割：会場全体の管理と、結果お知らせ票の準備や管理をする。

- ・結果伝達スタッフからスクリーニング検査結果お知らせ票を受け取り、管理する。
- ・結果セット（結果お知らせ票入り封筒と持ち帰り用資材）を準備する。
- ・来場した受検者の結果引換証切り離し部分を受付スタッフから受け取る。
- ・受検者の受付順に、結果通知部屋番号を結果セットに設置して、管理し、案内スタッフに渡す。
- ・結果通知の準備が完了している番号を常に把握し、必要に応じてイベント会場に伝達する。
- ・緊急連絡先にかかってくる電話に対応する。

### オペレーション補助1 [スタッフ：1 枠]

役割：スタッフ管理と確認検査結果通知の予約対応をする。

- ・シフトに入るスタッフの管理をし、シフト交代などへの対応をする。
- ・確認検査結果通知の予約の対応をする。結果通知スタッフから電話を受けたら予約を取る。
- ・結果通知スタッフからカウンセラーや個別相談員の要請を受け、必要スタッフに部屋番号を伝える。
- ・オペレーターの指示により、結果通知に入る。

### オペレーション補助2 [スタッフ：1 枠]

役割：結果通知部屋の稼働状況を把握する。

- ・出口（回収）スタッフから空いた部屋の番号の連絡を随時受ける。
- ・空いた部屋の番号を付箋に書き、順番に並べる。

### 結果通知受付 [スタッフ：2 枠]

役割：来場した受検者の受付対応をして、待合に案内する。

- ・受検者の結果引換証を確認し、切り離し部分を回収する。
- ・結果引換証の番号を結果通知受付表に記録する。切り離し部分は受付順に記録ホルダーに渡す。
- ・番号で呼ばれるまで待合で待つよう、受検者に伝える。

### 案内 [スタッフ：2 枠]

役割：受検者を待合から結果通知部屋へ案内する。結果セットを運搬する。

- ・記録ホルダーから結果セットをひとつずつ受け取る。
- ・セットに設置してある部屋番号と結果封筒（窓から受検番号が見える）を確認する。
- ・待合で受検者の番号を呼び、結果引換証を見せてもらい、番号を照合する。
- ・受検者を結果通知部屋に案内する。
- ・結果セットのファイルは帰りにアンケートを出すところに返却するよう受検者に伝える。
- ・結果セットを、結果通知スタッフに渡す（受検者には渡さない）。

### **結果通知** [スタッフ：5 枠]

役割：スクリーニング検査結果を通知し、その意味を説明する。必要に応じて、カウンセラーや個別相談員につなぐ。

- ・検査結果引換証と結果お知らせ票の受検者番号の照合確認をする。
- ・結果を通知し、その意味を受検者にわかりやすく説明する。結果セットに入っている資料を渡す。
- ・陰性結果の場合は、受検のきっかけになった行為の振り返りを支援し、必要に応じて個別相談員につなぐ。結果引換証と結果お知らせ票は全員分回収する。
- ・要確認検査の結果は、医師が通知する。同行者の有無、どのくらい時間が取れるか確認する。陽性の可能性があり、確認検査が必要であることを説明し、翌日の結果通知につながるよう配慮して対応する。オペレーター補助に電話をして、確認検査結果の通知時間の予約をして、検査結果引換証に記入して本人に返却する。必ずカウンセラーと連携して対応するために、カウンセラーの手配をする。結果お知らせ票は回収する。
- ・受検者が退室してから、簡単な記録をつける。

### **カウンセリング** [スタッフ：2～3 枠]

役割：要確認検査結果だった人に対して、カウンセリングを実施する。

- ・スタッフ控え室に待機し、要請に応じて結果通知スタッフを入れ替わりで結果通知部屋に入る。
- ・終了後はスタッフ控え室に戻って記録をつける。

### **個別相談（結果通知会場）** [スタッフ：1 枠]

役割：結果通知後の相談希望者に対応する。

- ・スタッフ控え室に待機し、要請に応じて結果通知スタッフと入れ替わりで結果通知部屋に入る。
- ・終了後は記録をつける。

### **出口（回収）** [スタッフ：1 枠]

役割：結果セットファイルを回収し、結果通知部屋の稼働状況を把握する。空いた部屋についてオペレーター補助に随時連絡する。

- ・結果通知部屋から出てきた受検者にファイル回収の声かけをする。
- ・アンケート記入の声かけをする。
- ・回収したファイルについている部屋番号を確認し、オペレーター補助に随時内線にて連絡を入れる。

### **その他の相談など**

- ・POSP 電話相談が当日に臨時で相談実施。（10月10日～16日14時半～21時）

## **【確認検査実施（大阪府立公衆衛生研究所）】**

### **検体分析** [スタッフ：2～4 枠]

役割：要確認検査結果となったものの確認検査を実施する。

- ・確認検査を実施する。
- ・結果お知らせ票を11日のオペレーターに手渡しする。

## 【確認検査結果お知らせ会場】

### 結果通知受付／オペレーター [スタッフ：1 枠]

役割：受検者の受付とスタッフの管理をする。

- ・受検者の検査結果引換証と予約表の確認をする。
- ・結果お知らせ票や資材を準備する。
- ・医師・カウンセラーからのつなぎ電話に対応し、案内スタッフに伝える。

### 案内 [スタッフ：2 枠]

役割：結果通知部屋の稼働状況を把握し、受検者を案内する。

- ・受検者を番号でよび、番号を確認した上で、結果通知部屋へ案内する。
- ・オペレーターの指示により、必要スタッフを呼ぶ。

### 確認検査結果通知 [スタッフ：4 枠]

役割：確認検査結果を通知し、その意味を説明する。

- ・検査結果引換証と結果お知らせ票の番号の照合確認をする。
- ・同行者の有無、どのくらい時間が取れるか確認する。
- ・結果を通知し、その意味をわかりやすく説明する。
- ・陰性結果の場合は、受検のきっかけになった行為の振り返りを支援する。必要に応じてカウンセラーにつなぐ。
- ・陽性の場合は、昨日の結果通知でどのくらい説明を聞いたか、また本人の理解を確認しながら、HIV 感染症の基本的事項を説明する。受検者が受診しやすい医療機関を選択できるように情報提供をする。受診予定機関が決まったら、紹介状を作成し、受診方法を具体的に説明する。医療機関が決まらない場合は、宛名を空白にした紹介状を発行する。紹介状・確認検査結果票・受診回答書・返信用封筒が入った封筒を受検者に渡す。持ち帰り資料を提供する。
- ・本日相談できることを案内し、カウンセラーにつなぐ。
- ・検査結果引換証は全員分回収する。
- ・スタッフ控え室に戻って、記録を書く。

### カウンセリング [スタッフ：3 枠]

役割：陽性とわかった人に対して、カウンセリングを実施する。

- ・結果通知を担当する医師と連携して、陽性結果を受け取った受検者に対応する。場合によっては、医療機関選択の手伝いもする。
- ・必要に応じて、受診前相談につなぐ。

### 受診前相談 [スタッフ：2 枠]

役割：カウンセラーの要請に応じて、経済的問題・保険証等、受診のために必要な受診前相談を担当する。

### その他の相談など

- ・POSP 電話相談が翌週に臨時で相談実施。(10月12日～16日19時～21時)

## 【その他の準備や対応】

### ■結果を受け取りに来なかった人への対応■

⇒緊急連絡先に電話があった場合に対応する

10日と11日は携帯番号、12日以降は大阪市保健所の電話番号（結果引換証に両方記載）で対応。

- ・緊急連絡先での対応：10日・11日のみ

受検者に、緊急連絡電話番号について、事前説明時に案内する。

結果を受け取りに来られない電話や後日結果についての問い合わせがあった場合には、大阪市保健所に電話をするように伝える。

確認検査結果通知の予約時には、明日予約時間に来られなくなった場合は必ず連絡をするように伝える。

- ・大阪市保健所での対応：12日以降

スクリーニング検査結果及び確認検査結果を取りにこなかった人から連絡があった場合に対応。

結果票は3ヵ月間保管する。

結果通知希望者へは大阪市保健所にて予約を取って対応する。

### ■針刺し事故への対応■

- ・大阪市総合医療センターの協力を得て対応する。
- ・事故対応者を決定し、対応マニュアルに基づき行動する。
- ・採血者に保険をかける。

### ■廃棄物処理■

- ・感染性廃棄物の処理は、大阪府立公衆衛生研究所が担う。

## ●実施結果 1 「受検者について」

### 【受検者の概要】

検査案内所で受検を希望する方のための資材を配布した結果、214人が採血会場に会場した。検査受付にて個別にリスクスクリーニングを実施した結果42人が受検しないことになり、172人に検査セット（受検番号）を発行した。事前説明待合および事前説明にて3人が受検をキャンセルしたため、採血まで実施したのは169人であった。169人全員がスクリーニング検査結果を受け取った。そのうち6人が要確認検査結果であった。6人には医師から結果を通知・説明した上で、カウンセリングを案内し、1人がカウンセリングを利用した。確認検査の結果、要確認であった6人全員が陽性結果であり、全員が翌日に結果を受け取った。医師が結果を通知・説明し、その後カウンセリングを利用したのは4人、受診前相談を利用したのは2人であった。6人全員に医療機関を紹介し、受診したことを知らせる医療機関からの受診回答書が6人分すでに送られてきている。個別相談を利用したのは計4人であった。1人は採血会場にてサポート関連ブースからの連携で利用、3人は結果会場で結果通知後に利用した（図6）。

本検査会では、事前説明の前に検査受付にてリスクスクリーニングを導入した。受検希望者が記入した確認用紙を用いて、担当者が個別に、HIV感染リスク行為の有無、受検経験、結果受取が可能か、イベント会場での検査であるが受検希望するか、について本人と確認した。その結果、42人は受検しないことになった（表1）。受検をしないことになった理由は（確認用紙から読み取れる範囲）、感染リスク行為がない8人、前回受検してから感染リスク行為がない6人、感染リスクが低い3人、明日結果受取りに来られない16人、定期的に受検している7人、不明1人、用紙なし1人であった。

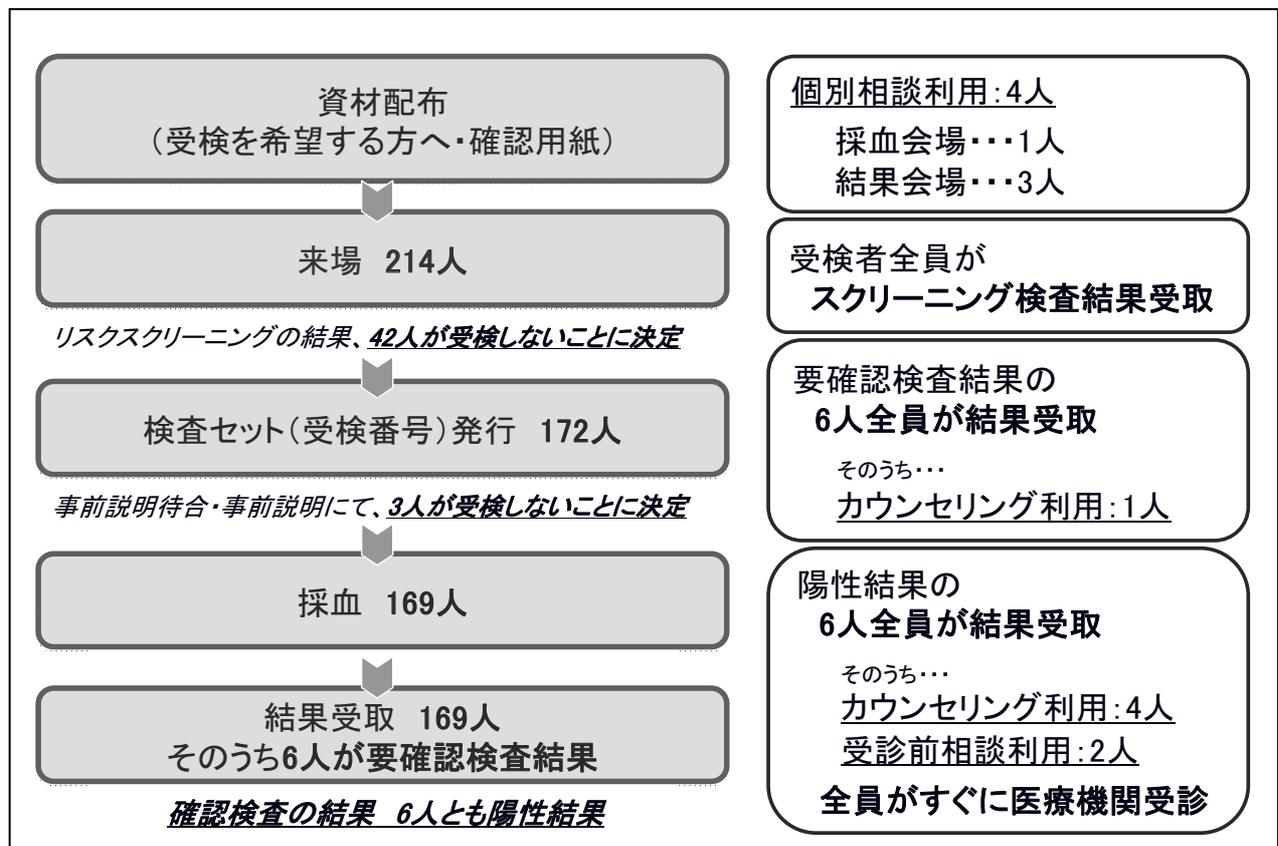


図6：受検者の状況

表1：受検者の来場と受検状況、及び結果通知状況

時間帯	受検受付可能 最大人数	採血会場への 入り人数	検査受付における キャンセル人数	受検番号発行数	結果通知人数
13:00～14:00	34人	38人	4人	34	
14:00～15:00	44人	57人	14人	43	17人
15:00～16:00	44人	54人	12人	42	35人
16:00～17:00	44人	36人	5人	31	42人
17:00～18:00	34人	29人	7人	22	33人
18:00～19:00					40人
19:00～20:00					2人
計	200人	214人	42人	172人 (*2)	169人

\*1 検査受付時間：13時開始～17時半受付終了、結果通知受付時間：14時半開始～19時半受付終了

\*2 受検番号発行後、事前説明待合及び事前説明にて受検キャンセルを決定した人が3名。

## 【受検者感想アンケートの回答結果】

### <受検者の特性（表2-1）>

結果通知後に受検者に匿名感想アンケート用紙を任意に記入してもらった。回収数は169部（回収率100%）であった。受検者のうち男性が90%強を占めた（図7）。同性間のみ、および同性間と異性間の性経験のある男性は147人で、受検者の87%であった（図8）。この147人をMSMとして集計した。

受検者の居住地は全国各地に及んでおり、和歌山県以外の近畿府県が含まれた。MSM受検者のうち118人（80%）が関西居住者であった（図9）。受検者のうちHIV陽性結果を受け取ったのは6人で、結果通知時にその全員が関西居住のMSMと把握できている。受検者の陽性割合については、受検者総数169人のうちの陽性割合は3.6%、MSM受検者147人のうちの陽性割合は4.1%、関西居住MSM118人のうちの陽性割合は5.1%であった。

MSM受検者の約半数が20歳代で、20～30歳代が80%を占めた。40歳代は14%であった（図10）。MSMの39人はこれまでに受検したことがなく、65人は過去1年間に受検していない人であった。つまり少なくともMSMの104人（70%）は検査会の対象と設定した層であったといえる（図11）。なお、これまでに受検したことがなかった39人のうち、検査意図はあったが受検したことがなかった人は25人（MSM受検者の17%）であった（図12）。

本検査会では、対象層を限定し、検査を受けることを目的にイベント会場に多数の人が来ることを避けるため、事前広報をしなかった。検査については、PLuS+パンフレット及びホームページにブースのひとつとして紹介するに留め、当日イベント会場にて検査ブースを見て知ってもらうことを目指した。感想アンケート回答から情報源についてみると、ブースを見て受検した人が最多であった。身近な人から聞いた人には、事前に聞いた人もいる可能性もあるが、会場内で聞いた人も含まれると考える（図13）。MSM受検者の受検理由として、最も高い割合（61%）だったのは「自分にも感染の可能性があるから」であった。次いで「イベントのついでに受けられたから」（48%）、「迅速検査ですぐに結果がわかるから」（47%）であり、約半数の受検者がこの検査会の特性を受検理由としていたことがわかった（図14）。これまでのPLuS+への来場回数は、1回が27%、2回が21%、3回以上は26%であり、25%は初来場であった。過去6ヶ月間の施設等の利用に関しては、ゲイバー81%、ゲイナイト52%、ゲイショップ39%、有料ハッテン場47%、PC出会い系サイト24%、携帯出会い系サイト46%、SNS56%であった。MASH大阪について以前から知っていたのは57%、distaについて以前から知っていたのは69%であった。

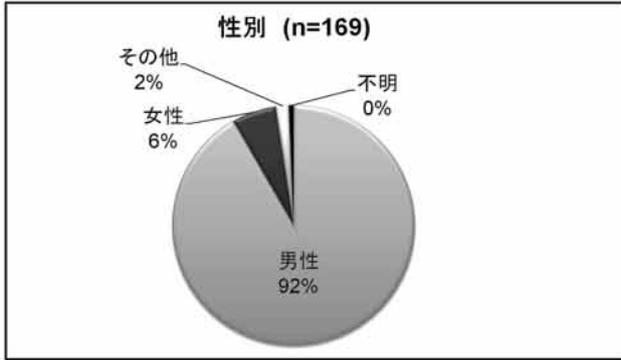


図7：受検者の性別

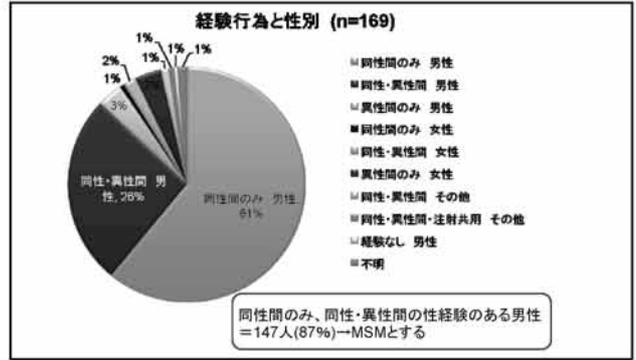


図8：受検者の行為と性別

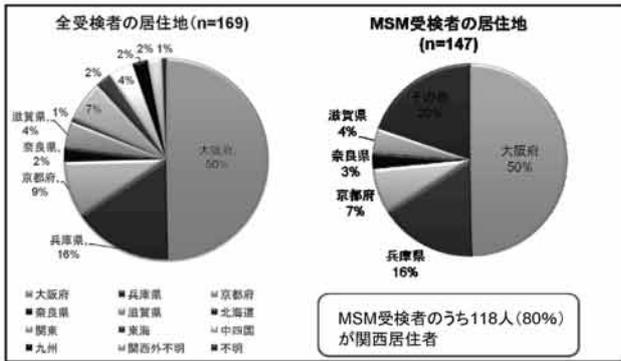


図9：受検者の居住地

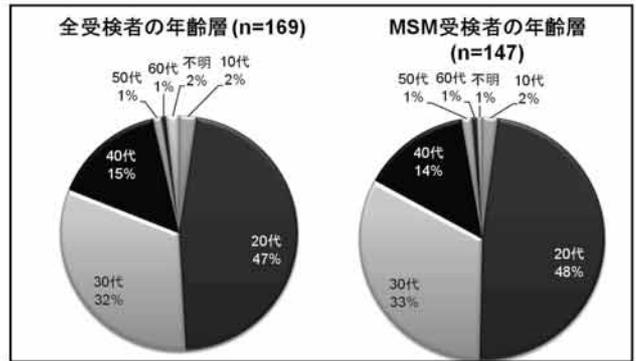


図10：受検者の年齢層

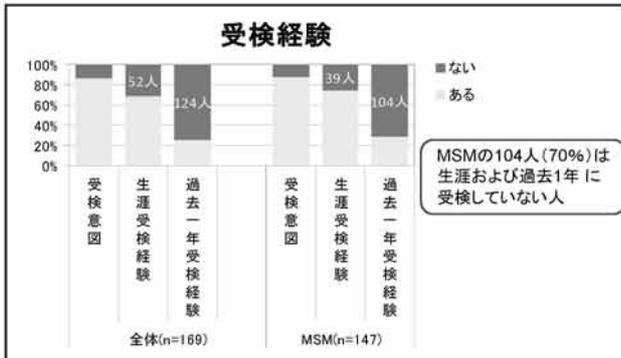


図11：受検者の受検経験

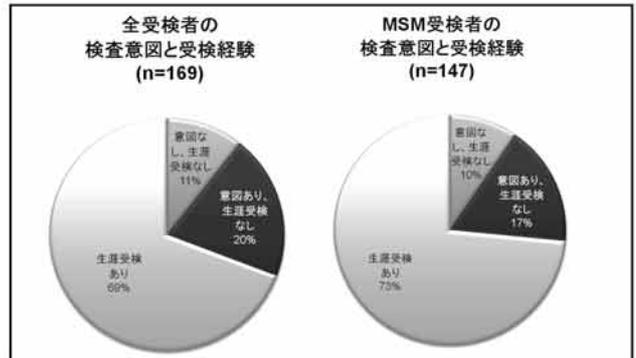


図12：受検者の受検意図と受検経験

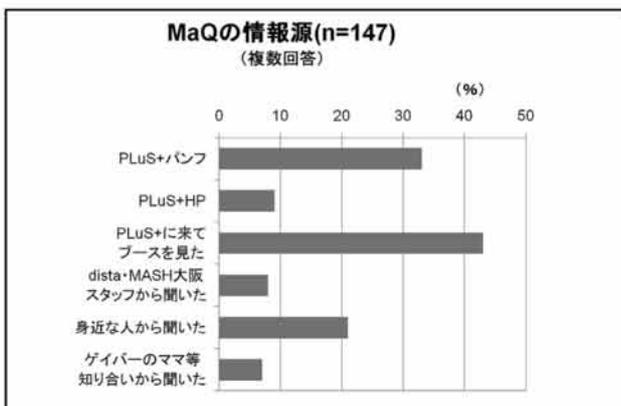


図13：MSM受検者のMaQを知った経緯

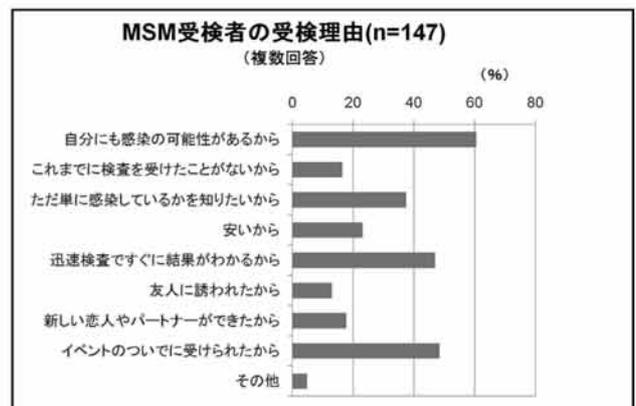


図14：MSM受検者の受検理由

## ＜受検者による評価・満足度（表2-2）＞

感想アンケートにて、受検者に検査会についての評価や満足度を聞いた。検査手順、検査結果の受け取り方法、検査結果お知らせ時の説明について「説明がなかった」「非常にわかりにくかった」と答えた受検者はいなかった。MSM 受検者のうち、検査手順が「ややわかりにくかった」としたのは6%、検査結果の受け取り方法が「ややわかりにくかった」としたのは6%、検査結果お知らせ時の説明が「ややわかりにくかった」としたのは3%であった。満足度について、不満度が高かった（「やや不満」もしくは「不満」の回答）項目は「受付から採血までの待ち時間」22%、「結果お知らせの待ち時間」17%であった。

結果お知らせの受付から結果通知までの待ち時間が20分以上であったのは16時半頃から17時頃の間で、最長47分の待ち時間であった。全受検者のうち、待ち時間が30分以上であったのは5人、20分～30分であったのは15人、10分～20分であったのは42人、0～10分であったのは107人であった。

今回検査を受けて「良かった」としたのは全受検者の97%、「良くなかった」としたのは0.6%、「どちらでもない」としたのは2%であった。「どちらでもない」とした人の理由は「結果の紙が欲しかった」というものであった。「良かった」とした人の理由のうち、主な内容と記述の抜粋は以下のとおりである。

### □受検する機会を得た

「なかなか勇気が持てず、たまたま会場に設置されていたので良い機会になった」

「ふだん仕事しているので、なかなか時間がないのでこういうのは助かります」

「こういうキッカケがないとなかなか受けないから」

「ずっと行こうと思ってたので、その機会を得られたのでよかった」

「自分から予約とかして行くとなると不安もあり、なかなか決断できなかったので」

「普通に保健所へ行くのは少し勇気がいるので、今日ブースにこういう検査があることによって安心感があるから」

### □気軽さ

「安く気軽にできたから」

「すぐに結果を知れ、安く受けれたので」

「短い時間で検査を受けることができるから」

「イベント会場でできるなんて手軽でよかった」

### □自分の状態を知れた

「自分の体の状態がわかったから」

「久しぶりに自分を知る機会ができたから」

「検査受けたことがなかったのでよかった」

### □今後への意識の高まり

「もう一度HIVについて考えなおせた」

「自分が今までHIVに感染していないか不安だったので、安心したと同時に予防への意識が高まった」

「知識が増えた。意識が高まった」

「セーフアセックスを守ってるつもりだが、自分の為、大事な相方の為にも守り続ける意欲がわいた」

### □対応について

「また受けようと思う雰囲気だったから」

「いろいろ聞けたから」

「結果を教えてくれる方がとても安心できる話し方の方でした」

「わかりやすかった」

表 2-1 : MaQ 感想アンケート 回答内容

	受検者全体		MSM受検者	
	n=169		n=147	
	n	%	n	%
<b>性別</b>				
男性	155	91.7	147	100
女性	10	5.9	0	
その他	3	1.8	0	
不明	1	0.6	0	
<b>性行為経験と性別</b>				
経験なし	1	0.6		
同性間のみ・男性	103	60.9	103	70.1
同性間と異性間・男性	44	26.0	44	29.9
異性間のみ・男性	6	3.6		
同性間のみ・女性	1	0.6		
同性間と異性間・女性	3	1.8		
異性間のみ・女性	6	3.6		
同性間と異性間・その他	3	1.8		
不明	2	1.2		
<b>年齢層</b>				
15-19歳	4	2.4	3	2.0
20-24歳	45	26.6	40	27.2
25-29歳	34	20.1	31	21.1
30-34歳	33	19.5	29	19.7
35-39歳	21	12.4	19	12.9
40-44歳	13	7.7	11	7.5
45-49歳	13	7.7	10	6.8
50-54歳	1	0.6	1	0.7
55-59歳	1	0.6	1	0.7
60-64歳	1	0.6	1	0.7
不明	3	1.8	1	0.7
<b>居住地</b>				
大阪府	84	49.7	73	49.7
兵庫県	27	16.0	24	16.3
京都府	15	8.9	11	7.5
奈良県	4	2.4	4	2.7
滋賀県	7	4.1	6	4.1
和歌山県	0		0	
その他	31	18.3	29	19.7
不明	1	0.6	0	
<b>検査意図</b>				
受けようと思ったことあり	147	87.0	129	87.8
受けようと思ったことなし	22	13.0	18	12.2
<b>これまでの受検経験</b>				
あり	117	69.2	108	73.5
なし	52	30.8	39	26.5
<b>これまでの受検回数</b>				
	n=117		n=108	
1回	38	32.5	33	30.6
2~3回	37	31.6	34	31.5
4~5回	25	21.4	24	22.2
6回~10回	12	10.3	12	11.1
11回以上	1	0.9	1	0.9
不明	4	3.4	4	3.7
<b>過去1年間の受検経験</b>				
あり	44	26.0	42	28.6
なし	124	73.4	104	70.7
不明	1	0.6	1	0.7
<b>過去1年間の受検回数</b>				
	n=44		n=42	
1回	33	75.0	31	73.8
2回	8	18.2	8	19.0
3回	1	2.3	1	2.4
不明	2	4.5	2	4.8

	受検者全体		MSM受検者	
	n=169		n=147	
	n	%	n	%
<b>受検理由(複数回答)</b>				
自分にも感染の可能性があるから	103	60.9	89	60.5
これまでに検査を受けたことがないから	31	18.3	24	16.3
ただ単に感染しているかを知りたいから	60	35.5	55	37.4
安いから	36	21.3	34	23.1
迅速検査ですぐに結果がわかるから	72	42.6	69	46.9
友人に誘われたから	24	14.2	19	12.9
新しい恋人やパートナーができたから	29	17.2	26	17.7
イベントのついでに受けられたから	79	46.7	71	48.3
その他	8	4.7	7	4.8
<b>検査会をどのように知ったか(複数回答)</b>				
PLuS+のパンフレット	54	32.0	49	33.3
PLuS+のホームページ	14	8.3	13	8.8
PLuS+に来て検査ブースがあった	71	42.0	63	42.9
distaやMASH大阪スタッフから	14	8.3	11	7.5
身近な人(恋人・友人等)から	41	24.3	31	21.1
ゲイバーのママなど知り合いから	11	6.5	10	6.8
その他	4	2.4	3	2.0
<b>PLuS+にこれまで何回来たか</b>				
0回	42	24.9	37	25.2
1回	43	25.4	39	26.5
2回	35	20.7	31	21.1
3回	19	11.2	15	10.2
4回	13	7.7	12	8.2
5回	6	3.6	5	3.4
6回	6	3.6	6	4.1
不明	5	3	2	1.4
<b>過去6か月間の施設等利用(複数回答)</b>				
いずれも利用なし	16	9.5	5	3.4
ゲイバー	122	72.2	119	81.0
ゲイナイト	80	47.3	77	52.4
ゲイショップ	59	34.9	57	38.8
出会い系サイト(携帯)	69	40.8	67	45.6
出会い系サイト(PC)	36	21.3	35	23.8
SNS	86	50.9	82	55.8
有料のハッテン場	71	42.0	69	46.9
その他のハッテン場	13	7.7	12	8.2
<b>大阪の団体やサービスの認知</b>				
<b>MASH大阪</b>				
以前から知っていた	94	55.6	84	57.1
今日会場で知った	21	12.4	19	12.9
知らない	41	24.3	35	23.8
<b>dista</b>				
以前から知っていた	111	65.7	101	68.7
今日会場で知った	19	11.2	17	11.6
知らない	30	17.8	23	15.6
<b>CHARM</b>				
以前から知っていた	15	8.9	13	8.8
今日会場で知った	24	14.2	23	15.6
知らない	107	63.3	95	64.6
<b>follow</b>				
以前から知っていた	8	4.7	7	4.8
今日会場で知った	23	13.6	21	14.3
知らない	115	68.0	103	70.1
<b>POSP電話相談</b>				
以前から知っていた	10	5.9	8	5.4
今日会場で知った	25	14.8	23	15.6
知らない	112	66.3	101	68.7
<b>ひよっこクラブ</b>				
以前から知っていた	11	6.5	9	6.1
今日会場で知った	25	14.8	22	15.0
知らない	109	64.5	99	67.3
<b>+ = O</b>				
以前から知っていた	44	26	38	25.9
今日会場で知った	29	17.2	26	17.7
知らない	78	46.2	71	48.3

表 2-2 : MaQ 感想アンケート 回答内容

	受検者全体		MSM受検者	
	n=169		n=147	
	n	%	n	%
<b>検査会評価と満足度</b>				
<b>検査手順</b>				
わかりやすかった	159	94.1	138	93.9
ややわかりにくかった	9	5.3	9	6.1
非常にわかりにくかった	0		0	
説明がなかった	0		0	
<b>検査結果の受取方法</b>				
わかりやすかった	159	94.1	138	93.9
ややわかりにくかった	9	5.3	9	6.1
非常にわかりにくかった	0		0	
説明がなかった	0		0	
<b>検査結果お知らせ時の説明</b>				
わかりやすかった	164	97	143	97.3
ややわかりにくかった	4	2.4	4	2.7
非常にわかりにくかった	0		0	
説明がなかった	0		0	
<b>話し方・言葉づかい</b>				
満足	162	95.9	141	95.9
やや不満	6	3.6	6	4.1
不満	0		0	
<b>質問しやすい雰囲気</b>				
満足	162	95.9	142	96.6
やや不満	4	2.4	3	2.0
不満	2	1.2	2	1.4
<b>プライバシー保護</b>				
満足	153	90.5	134	91.2
やや不満	15	8.9	13	8.8
不満	0		0	
<b>安心できる雰囲気</b>				
満足	162	95.9	142	96.6
やや不満	5	3.0	4	2.7
不満	1	0.6	1	0.7
<b>受付から採血までの待ち時間</b>				
満足	133	78.7	115	78.2
やや不満	27	16.0	25	17.0
不満	8	4.7	7	4.8
<b>結果お知らせの待ち時間</b>				
満足	139	82.2	122	83.0
やや不満	22	13.0	19	12.9
不満	7	4.1	6	4.1
<b>結果お知らせ時の対応</b>				
満足	165	97.6	144	98.0
やや不満	3	1.8	3	2.0
不満	0		0	
<b>今回検査を受けてみて良かったか</b>				
良かった	164	97.0	143	97.3
良くなかった	1	0.6	1	0.7
どちらでもない	3	1.8	3	2.0

## ●実施結果2「スタッフについて」

200人規模の迅速検査を実施するためには、多数のスタッフの参加が不可欠であった。そこで、CHARMが運営していた土曜日常設HIV検査事業（SAT）の経験者や大阪市保健師を中心に、スタッフを募集することとした。同時に説明・研修会の準備をした。

### 【募集方法】

大阪市保健所は、全保健師に向けて参加者を募った。またCHARMは2009年9月まで運営していたSATに関わっていた人たちに参加の呼びかけをした。その中に大阪府保健師が含まれ、同僚などへの声かけも行なわれた。採血者については、SATに関わっていた看護師のネットワークにより、HIV検査での採血経験者に声かけがされた。MASH大阪ボランティア等の人からの自主的な参加希望もあった。

### 【研修会の実施と参加者】

迅速HIV検査会MaQへの参加（特にリスクスクリーニングを担当する検査受付、事前説明、結果通知、カウンセリング、個別相談）には研修会の受講を前提とした。8月から10月にかけて、4種類、6回の説明・研修会を企画・実施した。これらの研修会を受講できなかった人には個別の研修を実施した（表3、表4）。研修会参加者の合計は87名であった。研修を受講できなかった人には前述以外の実務を担ってもらうこととした。特に研修を設けなかった各パートの実務については当日に実務マニュアルを配布した。

表3：研修内容別参加者数

研修内容	参加者合計	内訳
採血前対応 (検査受付・事前説明)	38名	保健師32名・医療ソーシャルワーカー2名、その他4名 (うち元SATスタッフ7名)
結果通知	41名	保健師36名、看護師1名、医師4名 (うち元SATスタッフ8名)
カウンセリング	6名	HIV陽性結果通知もしくは陽性者支援経験のある心理職6名 (うち元SATスタッフ4名)
個別相談	2名	検査時個別相談経験者2名 (うち元SATスタッフ2名)

表4：研修会実施概要

研修内容	日時	参加者数
MaQ 概要・採血前（検査受付、事前説明）	9月3日（金）19時～21時	21名
MaQ 概要・採血前（検査受付、事前説明）	9月12日（日）14時～16時	11名
MaQ 概要・結果通知・結果通知会場での通知以外の役割	9月4日（土）14時～16時	18名
MaQ 概要・結果通知・結果通知会場での通知以外の役割	9月8日（水）18時半～20時半	23名
MaQ 概要・結果通知時のカウンセリング	8月17日（火）19時～21時半	5名
MaQ 概要・個別相談	9月24日（金）19時～21時半	2名
上記以外に個別に研修実施：4回、参加合計7名		

### 【検査会当日のスタッフ参加状況】

説明・研修会に参加した人のほとんどが検査会に参加し、当日参加スタッフの実数は合計87名であった(表5)。多くの保健師の参加が得られ、ほとんどのパートでシフトを組んで実務をした。多くの保健師はふたつのパートを担当した。なお、混乱やシフト組みの煩雑さを避けるために、会場別にシフトを組んだ。

表5：職種別スタッフ内訳

職種	採血会場と検査分析	結果通知会場	確認検査結果通知会場(翌日)
保健師	29名(うち元SAT 1名)	16名(うち元SAT 2名)	1名
看護師	11名(うち元SAT 3名)	2名(うち元SAT 2名)	
医師	1名(管理医師)	2名(うち元SAT 2名)	4名(うち元SAT 4名)
心理士		5名(うち元SAT 3名)	2名(うち元SAT 1名)
ソーシャルワーカー	4名(うち元SAT 3名)		4名(うち元SAT 3名)
検査技師	5名		
その他	7名(うち元SAT 3名)	1名(うち元SAT 1名)	1名(うち元SAT 1名)
会場別計	56名	26名	12名
参加スタッフ実数合計		87名	

表6：担当パート別スタッフ内訳(のべ人数)

担当パート	スタッフ数	内訳
スタッフ受付・シフト管理	2名	保健師2名
採血会場オペレーター	1名	ソーシャルワーカー1名(うち元SAT 1名)
検査案内	2名	その他2名
受検者カウント	3名	保健師2名、その他1名(うち元SAT 1名)
チケット回収	3名	保健師3名
チケット払い戻し	3名	保健師3名
検査受付	15名	保健師13名、ソーシャルワーカー2名(うち元SAT 1名)
事前説明待合	6名	保健師3名、ソーシャルワーカー1名、その他2名(うち元SAT 4名)
事前説明	14名	保健師11名、その他3名(うち元SAT 4名)
採血待合	6名	保健師6名(うち元SAT 1名)
採血	9名	看護師9名(うち元SAT 2名)
止血確認	2名	看護師2名(うち元SAT 1名)
アンケート記入	3名	保健師2名、その他1名
個別相談受付	4名	保健師4名
採血会場個別相談	1名	その他1名(うち元SAT 1)
検体運搬	3名	保健師2名、その他1名
検査分析	5名	大阪府立公衆衛生研究所職員5名
結果伝達	4名	保健師2名、その他2名
結果通知会場・全体オペレーター	1名	その他1名(うち元SAT 1)
結果通知会場・オペレーター補助	2名	保健師2名(うち元SAT 2)
結果通知会場・受付	5名	保健師5名
結果通知会場・部屋案内	6名	保健師6名
結果通知会場・結果通知	15名	保健師12名、看護師1名、医師2名(うち元SAT 3名)
結果通知会場・個別相談	1名	看護師1名(うち元SAT 1)
結果通知会場・カウンセリング	5名	心理士5名(うち元SAT 3)
結果通知会場・出口回収	2名	保健師2名
確認検査結果通知会場・オペレーター/受付	1名	その他1名(うち元SAT 1)
確認検査結果通知会場・案内	2名	保健師1名、ソーシャルワーカー1名(うち元SAT 1名)
確認検査結果通知会場・結果通知	4名	医師4名(うち元SAT 4名)
確認検査結果通知会場・カウンセリング	3名	心理士2名、ソーシャルワーカー1名(うち元SAT 2名)
確認検査結果通知会場・受診前相談	2名	ソーシャルワーカー2名(うち元SAT 1名)

## 【検査会のオペレーションデザインとスタッフ研修についてのまとめ】

対象者をしぼり、受検希望者に最低限の情報を提供した上で受検を決定してもらうため、また丁寧な結果通知を受けて適切な相談を利用できるようにするため、パート別に役割分担をする検査会デザインとなった。スタッフとして参加する者に対し最低限の研修を実施することで、検査会の目的やスタッフの基本姿勢、及び各パートの役割や手順を伝えることに努めた。

当日参加スタッフには、報告および感想用紙への記入を依頼した。また、検査会開催の約1ヵ月後（11月9日）に、スタッフ振り返り会を実施した。受検者数や受検者の特性などの実施結果を報告するとともに、スタッフからの報告や感想を共有する時間を持った。

研修については、事前に目的や手順が把握できたことで当日安心して臨めたということや、受検者にとって安心して利用できる検査相談のあり方を学ぶことができたなどの感想が寄せられた。また、日常の業務について振り返る機会や知識の確認になったということ、陽性の人のサポートサービスの存在を知ることができたなどの感想もあった。一方で、未定のことが多々あり、おおよその流れはわかったが当日に変更点があり戸惑ったという意見も寄せられた。

担当したパートについては、それぞれが経験したことや実務報告、具体的な改善点などについて多くの感想や意見が寄せられた。また、ともに活動したことにより、異なる職場や多職種との交流の機会にもなった様子が伺われた。実際に受検者に接した感想、自らの意識や姿勢、および受検者理解についての気づきのコメントも寄せられた。以下に一部を抜粋する。

- ・「採血の前の意思確認を繰り返し、検査を受けることの事後のリスクを正しく伝えることや、結果通知の受け取りまで含めたインフォメーションの実施が、最終的に結果受け取り 100%という結果に評価されると感じました。また、結果通知についての研修では、結果通知の部分だけではなく、検査体制全体の流れや事前の配慮・結果通知後のフォロー体制、安全で安心して受ける事の出来る検査体制への配慮について、学ぶことができました」
- ・「色々な性に関する考え方があると再認識した。自分のこうあるべきといった思い込みがあることに気づかされた。その人を理解するには固定概念にとらわれずありのままを受け入れることを職場に戻ってから考えていきたい」
- ・「今後の検査場面で常に MSM の人かも？と思いながら対応することが、いろいろな相談に対応していくことができることになると思います」
- ・「こちらが当たり前と思っていることでも、受検者はわからない（知らない）可能性があるのでは、全てを一通り説明することの重要性を感じました」
- ・「受検が怖いという人を間近で見て、受検しない・したくない人にとっての恐怖心をリアルに感じ、複雑な気持ちになった。この恐怖心を除き受検に結びつけるのは、容易なことではないと思う。だが同時に、この恐怖心に共感しようとする姿勢を持ちながら予防・検査・ケア情報を発信することの意味を再確認した」
- ・「サービスを提供するにあたっての考え方について改めて考えさせられました」
- ・「今後の HIV 検査のあり方、あるべき（やるべき）姿を学ばせてもらったかんじです」

## ●考察・まとめ

そねざき古林診療所の巡回診療として、PLuS+ FINALにおいてHIV迅速検査会 MaQを実施した。87名のスタッフの参加を得て、PLuS+ FINALの開催時間中に、メイン会場の扇町公園特設検査場で採血を行ない、約1時間後に、検査結果通知会場とした大阪市北区保健福祉センターで結果の通知をする（ただし、確認検査が必要となった方には、翌日に確認検査結果を受け取りに、再度お越しいただく）というデザインで設定した。

イベント開催時間内に当日の結果通知を終了できるよう、受け入れ可能な受検者数の限界を200人と設定した。その限られた枠内で、受検する必要性の高い人たちがより多く受検できるよう、受検前にリスクスクリーニングを行ない、HIVに感染する機会がほとんどなかったと判断される方や、定期的に検査を受けている方などには受検をご遠慮いただくという形式で行なった。

その結果、受検希望者214人、リスクスクリーニング後の受検希望者172人、最終的な受検者169人（途中キャンセル3人）となった。169人全員が結果を受け取った。そのうち要確認検査結果を受け取った6人の全員が翌日の確認検査結果を受け取り、全員が陽性結果であった。この6人は全て同性間の性的接触経験のある男性であった。この6人にはHIVの専門治療病院を紹介し、全ての方が受診したことを確認している。

169人の受検者のうち147人が同性間の性的接触経験のある男性であった。この中で6人がHIV陽性と判定されたことから、同性間の性的接触経験のある男性の約25人に1人がHIV陽性であったという結果となった。さらに、関西地域在住者に絞ってみた場合、約20人に1人の割合となることが分かった。

企画当初設定した目的と対象に沿って結果をまとめると、

- ・最大200人の受け入れ体制を準備した中、214人が来場し、最終的に169人が受検した。その多くは当日に検査会を知った人であった。  
⇒「人のいる場所へ出向く」検査相談が機能した。
- ・受検者全員が結果を受け取った。  
⇒イベントでの確認検査結果を翌日に返す迅速検査が機能した。
- ・陽性率は、全受検者の3.6%、MSM受検者の4.1%、関西居住MSM受検者の5.1%であった。  
⇒感染の可能性のある状況にある人に受検機会を提供できた。
- ・MSMの70%がこれまで、もしくは過去1年間に受検していない人であった。  
⇒HIV感染の可能性の高い状況にありながら、わざわざHIV検査には行かない人に受検機会を提供できた。  
事前広報をしなかったこと、リスクスクリーニングを導入したことがある程度機能した。

これらの結果から、今回の検査会は「検査への意図はあるが、既存の検査場には出向けていない」人たちに、大型イベントを契機にして受検を促すという目的をある程度達成できたと考える。

しかし、この検査会は単にイベント会場でのHIV検査実施を推奨するものではない。検査相談を必要としている人たちに向けて、いかに早期検査の機会を提供し、治療アクセスや社会にあるリソースを活用するようにしていくかを十分に準備して検査を実施することが大切であると考ええる。

さらに検査会運営の観点から、巡回診療など検査会運営主体のありかたについてはいくつかの課題があるものの、多くの機関・団体の協力により相談・支援を十分に準備できたことや、スクリーニング検査結果の通知会場としてイベント会場（採血会場）の近隣に位置する大阪市北区保健福祉センターが使用できたことには大きな意味がある。今回の検査会は、民間組織、自治体、検査機関の協働により実現したといえる。

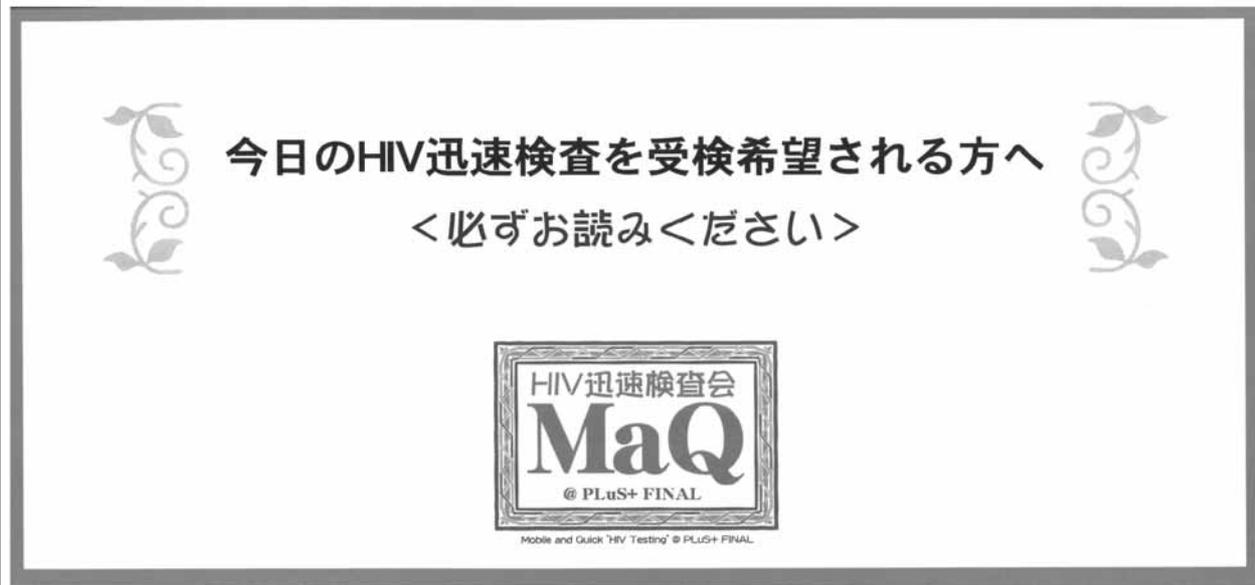
また保健師をはじめと多くスタッフの参加があり、これまであまり検査相談の経験がなかった方にも、検査相談についての基本姿勢を体験したり、MSM受検者の現状に触れたりする機会になった可能性がある。共通目的を持ち、それを実現するためにセクターや職種を越えて一緒に活動することの意義が示された。

今後も民間と自治体が、検査相談環境の充実に向けて協働していくことへのきっかけになることを期待する。

## 添付資料

添付資料1：検査案内所で配布した資料セット（一式）

①受検希望者への事前配布資料「今日の検査を受検希望される方へ」



②リスクスクリーニング用「確認用紙」



③確認用紙記入用鉛筆





MAQ HIV迅速検査会

<必ずお読みください>

## 今日のHIV迅速検査を受検希望される方へ

---

■今日は検査を受けられないんだけどという方は…

保健所や委託検査機関などで、無料・匿名検査を受検できます。医療機関でも、有料で受検できます。  
 MASH大阪が運営しているホームページdista.bでは、関西の無料・匿名HIV検査場が検索可能です。  
 ゲイ・バイセクシュアル男性を中心としたMSMのための、クリニック検査キャンペーンについても掲載しています。



PCサイト>>> <http://www.dista.be/>  
 携帯サイト>>> <http://www.dista.be/m/> 携帯はコチラから▶



HIV迅速検査会 MaQ @ PLuS+ FINAL  
 実施日：2010年10月10日（確認検査結果の通知は11日）  
 主催：MASH大阪  
 協力機関：大阪市保健所/大阪府立公衆衛生研究所/特定非営利活動法人 CHARM/特定非営利活動法人 関西エイズ対策協議会/そねざき古林診療所  
\*検査実施会場となるPLuS+ FINALは「厚生労働省 エイズ予防のための戦略研究」「大阪市保健所 個別施策層向けエイズ予防啓発事業」に基づき実施されます

---

**□ 陽性とわかったら？**

HIVは、治療をしなければ死に至る病気ですが、日本では、早く感染がわかれば、死に至る病気ではなくコントロールしながら長期的に付き合っていく病気になることがあります。HIVとともに生活していくための医療が日本では整っています。

感染がわかったら、現在どのくらい体内にHIVがあるか、免疫力はどうかなどの状態をまず知る必要があります。その状態によって、体内のHIVの増加をとめるための薬を飲み始めるかどうか判断されます。すぐに飲み始めない場合には、病院でHIVや免疫力の数値を定期的にみていきます。HIVのお薬は高価ですが、個人の負担が軽くなるための制度があります。

本日、「要確認検査」という結果がわかった場合にも、明日「陽性」という結果がわかった場合にも、病院の選択や病院に行く前の心配ごと、今後のことなどについて説明し、相談にのります。また、陽性とわかった人が利用できる電話相談などのサポート情報もお伝えします。

**□ フライバイシーは守られる？**

この検査では、受検者を番号のみで把握し、名前や連絡先などの個人情報は一切お聞きしません。受付後にもらう番号があなたの番号になり、採血のときも、結果を受け取るときもその番号を用います。

ただし、イベント会場で実施する検査会のため、あなたが受検することを、友人や知人に知られるかもしれないかもしれません。結果を受け取った後に、友人と顔を合わせるかもしれないかもしれません。そういう意味で、知り合いのいる中で検査を受け、結果を受け取るという状況になる可能性があります。

また、検査結果も個人情報ですので、受検した人に検査の結果を聞かないようにしましょう。

折後表紙面

山折(2折め)

折後裏紙面

山折(1折め)

今日のHIV迅速検査の受検を希望される方は、必ずこのリーフレットをよくお読みください。  
その上で、本当に今日受検するかどうか、自分の意思で決定し、受検を希望する場合には、このリーフレットと一緒に  
お渡しした確認用紙に記入を済ませて、PLuS+ TICKETを3枚持って、検査場入口にお越し下さい。

#### こんな人に受けて欲しい・・・

HIVに感染する機会が充分にあった方で、

今までに一度も検査を受けたことがない方 or 長期間検査を受けていない方

MaQは、PLuS+ FINALの開催に合わせて実施されるHIV迅速検査会です。

PLuS+ FINALの開催時間中に、メイン会場である扇町公園の特設検査場で採血を行い、およそ1時間後に検査結果をお伝えします。  
(ただし、確認検査が必要となった方は、翌日に確認検査結果を受け取りに、再度お越しいただく必要があります。)

今回は限られた時間の中で検査会を実施するので、受検していただける人数には限界があります。

そこで今回の検査会では、HIV感染の可能性の高い方に優先して受検していただくため、HIVに感染する機会がほとんどなかったと判断される方や、定期的に検査を受けている方などには受検をご遠慮いただくこともあります。

対象者:	HIVに感染する機会があったが、検査を受けたことがない方。または長期間検査を受けていない方
検査項目:	HIV
結果お知らせ:	約1時間後(要確認の場合は明日の午後に再度お越しいただく必要があります)
費用:	PLuS+チケット3枚
会場:	【採血】扇町公園内MaQ検査場入口 / 【結果お知らせ】扇町公園隣接会場(徒歩2分くらい)

#### 今日の検査について・・・

検査項目はHIVのみ

今日受けることのできる検査は、HIV(エイズの原因となるウイルス)に感染しているかどうか分かる検査です。

HIV検査は2段階の検査方法で実施されます。まず、受検した全員の血液をスクリーニング検査(\*1)します。スクリーニング検査で「要確認検査」(「陽性+」)と判定されたものに関して、確認検査(\*2)を実施します。

##### ※スクリーニング検査

HIVに感染している可能性があるかないかをふるい分ける検査です。しかし非常に鋭敏な検査なので、本当は陰性なのに陽性と判定されること(偽陽性)があります。そこで陽性と判定されたものについては確認検査を実施する必要があります。(偽陽性判定の確率は100~200人に1人くらいの割合といわれています) 今回の検査ではスクリーニング検査を2種類実施することで偽陽性の割合を減らした上で結果をお知らせします。

##### ※確認検査

スクリーニング検査結果が陽性だった場合に、その陽性結果について本当に陽性なのか、もしくは偽陽性なのかを判定する検査です。HIV感染を正確に判定することができる方法で実施されます。確認検査で陽性と判定された場合は、HIVに感染していると考えられます。  
今日はHIV検査のみを実施していますので、HIV以外の性感染症の検査についてはクリニック検査の資料をご覧ください。

結果のお知らせは、約1時間後(要確認の場合は明日の午後に再度お越しいただく必要があります)

扇町公園内で採血をして、約1時間後に扇町公園隣接会場(徒歩2分くらい)にて結果をお返しします。

この時にわかるのは、「陰性」か「要確認検査」という結果です。

「陰性」というのは、2ヵ月前の時点で感染していなかったという意味です。

「要確認検査」というのは、感染している可能性があり、この検査だけでは確定できないため、確認検査の必要があるという意味です。「要確認」の結果だった場合には、確認検査をした結果を公園近隣の会場にて明日お返しします。

確認検査の結果として「陰性-」つまりHIVに感染していない、「陽性+」つまり感染しているということがわかります。

◎これまでの様々な調査のデータから推測し、今回の検査会では、検査を受けた人の3%~5%くらいの割合でHIV陽性とわかる人がいる可能性があると考えています。今回の検査では10人前後の方と予想されます。

本日の検査結果は、イベントをやっている時間帯に、この公園近くの結果お知らせ会場で受け取るようになります。ひょっとしたらあなたは「要確認検査(=HIV陽性の可能性があり確認検査が必要で最終結果は明日わかる)」という結果を受け取るかもしれませんし、その直後に友人や知人と顔を合わせるかもしれません。

検査を受けるには、PLuS+チケット3枚が必要

検査結果を記載した用紙などはお渡しいたしません

**\* 検査の受付は午後5時半まで！**

内面

以下のQ1～Q10の質問について該当するほうに○をつけてください

Q1	コンドームを使わずに男性とアナルセックスをしたことがありますか？	ある or ない
Q2	セックス相手の精液(先走り液も含む)を口にふくんだことがありますか？	ある or ない
Q3	薬物使用やアルコール摂取で、判断能力が不明瞭な状態でセックスをしたことがありますか？	ある or ない
Q4	薬物使用などで注射針を共有したことがありますか？	ある or ない
Q5	これまでに、HIV検査を受けたことがありますか？	ある or ない

Q5で「ない」に○をつけた方は、Q6～Q7はご回答いただく必要はありません。Q8へ進んでください。

Q6	過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか？	ある or ない
Q7	前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか？	ある or ない
Q8	迅速検査の結果を、採血後およそ1時間後に受け取りに来ることが出来ますか？	出来る or 出来ない
Q9	今日の迅速検査の結果が「要確認検査」となった場合は、確認検査結果を明日受け取りに来ることが出来ますか？	出来る or 出来ない
Q10	迅速検査の結果はこの公園に隣接する施設で受け取ることとなります。ひょっとしたらあなたは「要確認検査」(=HIV陽性の可能性があり確認検査が必要)という結果を受け取った後に、友人や知人に会うかもしれません。その事をきちんとよく考えうえで受検を希望しますか？	受検を希望する or 受検を希望しない

50380805808 記入がすんだら裏面をご買下さい。 50380805808

外面

この日のHIV迅速検査会  
PLUS+ TICKETを3枚用意して  
検査場入口までお越しください。

Model and Quick HIV Testing @ PLUS+ FINAL

# HIV迅速検査会

# MaQ

PLUS+ FINAL

ご記入ありがとうございます。

では、

PLUS+ TICKET を 3枚用意して  
検査場入口までお越しください。

山折

## Q1~Q4の回答別査定方法

### 【パターン①】

以下のQ1~Q10の質問について該当するほうに○をつけてください

Q1	コンドームを使わずに男性とアナルセックスをしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>
Q2	セックス相手の精液(先走り液も含む)を口にふくんだりしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>
Q3	薬物使用やアルコール摂取で、判断意識が不明瞭な状態でセックスをしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>
Q4	薬物使用などで注射針を共有したことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>

すべて「ない」場合は、本日の受検でなくともよい

### 【パターン②】

以下のQ1~Q10の質問について該当するほうに○をつけてください

Q1	コンドームを使わずに男性とアナルセックスをしたことがありますか?	ある <input checked="" type="radio"/> ない <input type="radio"/>
Q2	セックス相手の精液(先走り液も含む)を口にふくんだりしたことがありますか?	ある <input checked="" type="radio"/> ない <input type="radio"/>
Q3	薬物使用やアルコール摂取で、判断意識が不明瞭な状態でセックスをしたことがありますか?	ある <input checked="" type="radio"/> ない <input type="radio"/>
Q4	薬物使用などで注射針を共有したことがありますか?	ある <input checked="" type="radio"/> ない <input type="radio"/>

すべて「ある」場合は、Q5~Q7へすすむ

### 【パターン③】

以下のQ1~Q10の質問について該当するほうに○をつけてください

Q1	コンドームを使わずに男性とアナルセックスをしたことがありますか?	ある <input checked="" type="radio"/> ない <input type="radio"/>
Q2	セックス相手の精液(先走り液も含む)を口にふくんだりしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>
Q3	薬物使用やアルコール摂取で、判断意識が不明瞭な状態でセックスをしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>
Q4	薬物使用などで注射針を共有したことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>

基本的にひとつでも「ある」場合は、Q5~Q7へすすむ

### 【パターン④】

以下のQ1~Q10の質問について該当するほうに○をつけてください

Q1	コンドームを使わずに男性とアナルセックスをしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>
Q2	セックス相手の精液(先走り液も含む)を口にふくんだりしたことがありますか?	ある <input checked="" type="radio"/> ない <input type="radio"/>
Q3	薬物使用やアルコール摂取で、判断意識が不明瞭な状態でセックスをしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>
Q4	薬物使用などで注射針を共有したことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input checked="" type="radio"/>

Q2のみ「ある」で女性の場合は、多少コミュニケーション必要。  
感染リスクが高くはないため、この検査会での受検でなくともよい

## Q5～Q7 の回答別査定方法

<p>【パターン①】</p> <table border="1"> <tr> <td>Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> </table> <p>Q5が「ない」の場合は、Q8～Q9にすむ</p>	Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	<p>【パターン④】</p> <table border="1"> <tr> <td>Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> </table> <p>Q8～Q9にすむ</p>	Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>
Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
<p>【パターン②】</p> <table border="1"> <tr> <td>Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> </table> <p>本日の受検でなくともよい</p>	Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	<p>【パターン⑤】</p> <table border="1"> <tr> <td>Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> </table> <p>定期的に受検しているのなら、本日の受検でなくともよい</p>	Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>
Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
<p>【パターン③】</p> <table border="1"> <tr> <td>Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> <tr> <td>Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?</td> <td>ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/></td> </tr> </table> <p>本日の受検でなくともよい</p>	Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>	<p>コツ：基本はQ5とQ7を見ればよい！</p> <p>Q5「ない」 → Q8～Q9へ                  Q5「ある」&amp; Q7「ない」 → 対象外                  Q5「ある」&amp; Q7「ある」 → Q8～Q9へ                  ただし、パターン⑤はコミュニケーション必要                  どこかで定期的に受検しているなら対象外</p>						
Q5 : これまでに、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q6 : 過去1年以内に、HIV検査を受けたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												
Q7 : 前回検査を受けてから今まで、Q1～Q4のいずれかの行為をしたことがありますか?	ある <input type="radio"/> ない <input type="radio"/>												

## Q8~Q9 の回答別査定方法

### 【パターン①】

Q8	迅速検査の結果を、採血後およそ1時間後に受け取りに来ることが出来ますか?	<input checked="" type="radio"/> 出来る <input type="radio"/> 出来ない
Q9	今日の迅速検査の結果が「要確認検査」となった場合は、確認検査結果を明日受け取りに来ることが出来ますか?	<input checked="" type="radio"/> 出来る <input type="radio"/> 出来ない

Q8は、具体的な時間を提示して確認。  
「今から30分後くらいに採血になる。  
それから1時間後なので、〇時〇分くらいに  
結果を受け取る時間がとれるか」(ここから徒歩2分の会場)

Q8、Q9とも「出来る」人のみQ10へ

### 【パターン②】

Q8	迅速検査の結果を、採血後およそ1時間後に受け取りに来ることが出来ますか?	<input type="radio"/> 出来る <input checked="" type="radio"/> 出来ない
Q9	今日の迅速検査の結果が「要確認検査」となった場合は、確認検査結果を明日受け取りに来ることが出来ますか?	<input type="radio"/> 出来る <input checked="" type="radio"/> 出来ない

本日は受検してもらわない  
他の検査検索サイトは配布資料にあり

### 【パターン③】

Q8	迅速検査の結果を、採血後およそ1時間後に受け取りに来ることが出来ますか?	<input type="radio"/> 出来る <input checked="" type="radio"/> 出来ない
Q9	今日の迅速検査の結果が「要確認検査」となった場合は、確認検査結果を明日受け取りに来ることが出来ますか?	<input type="radio"/> 出来る <input checked="" type="radio"/> 出来ない

本日は受検してもらわない

### 【パターン④】

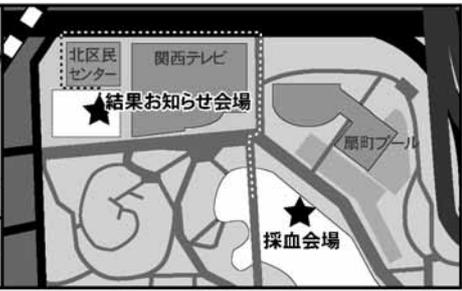
Q8	迅速検査の結果を、採血後およそ1時間後に受け取りに来ることが出来ますか?	<input type="radio"/> 出来る <input checked="" type="radio"/> 出来ない
Q9	今日の迅速検査の結果が「要確認検査」となった場合は、確認検査結果を明日受け取りに来ることが出来ますか?	<input type="radio"/> 出来る <input checked="" type="radio"/> 出来ない

本日は受検してもらわない

表面

<p><b>HIV迅速検査会 MaQ</b> <b>検査結果引換証</b></p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 20px;"><b>MaQ-001</b></p> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;">検査結果を受け取る時には、この引換証が必要になります。必ずご持参下さい。</p> <p>検査結果は、採血から約1時間後に 大阪市北区保健福祉センターへ受け取りにきてください。 検査に関する緊急連絡先：090-3843-5826（10日・11日のみ）</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">HIV迅速検査会 MaQ (報告控) 検査結果引換証</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">MaQ-001</p> <p style="font-size: x-small; text-align: center;">*この引換証(報告控)は、確認後に 切り取り回収します。</p>
---	---

裏面

<p style="text-align: center;"><b>HIV検査 受検意思確認書</b></p> <p style="font-size: x-small;">私は、HIV/AIDS及び本検査 について説明を受け、納得 のいく解答を得ました。 その上で、今日の検査を  受けます or 受けません</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p style="text-align: center; font-weight: bold;">本日の 結果お知らせ について</p> <p style="font-size: x-small;">場所：北区保健福祉センター 時間：14:30～20:00 (受付は19:30まで)</p> <p style="font-size: x-small;">採血後約1時間後に、結果を 受け取りにきてください。</p> <p style="font-size: x-small;">12日以降の問い合わせは、 06-6647-0652 (大阪市保健所担当部署直通)</p> </div> 
---	---

## HIV迅速検査MaQ@PLuS+FINAL 採血前のインフォメーション

Mobile and Quick HIV Testing @PLuS+ FINAL

### 検査セットの確認

#### セット内容

- 検査結果引換証
- 番号シール
- アンケート用紙
- アンケート用の封筒

検査結果引換証と番号シールの番号が  
同じかどうか確認してください

### ここでお伝えすること

- ① 匿名検査について
- ② 検査の流れ
- ③ 検査結果の意味
- ④ HIV感染の考え方
- ⑤ HIV陽性とわかったら
- ⑥ 採血について
- ⑦ 結果お知らせについて
- ⑧ アンケート協力をお願い
- ⑨ 相談のご案内

### 匿名の検査とは

*個人を特定する情報をお聞きしない検査です*

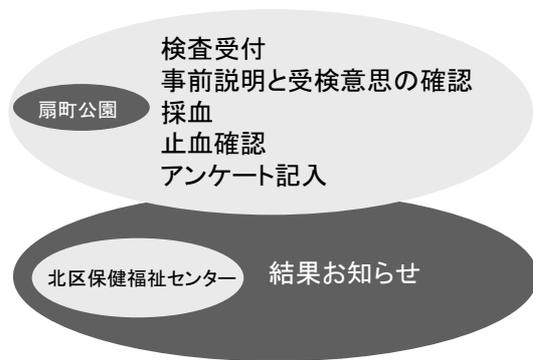
- ◆ 検査はすべて匿名で行われます
- ◆ 名前・住所・電話番号などの情報は必要ありません

検査結果引換証の番号ですべての手続きが行われます。  
郵送や電話で結果をお知らせすることはできません。

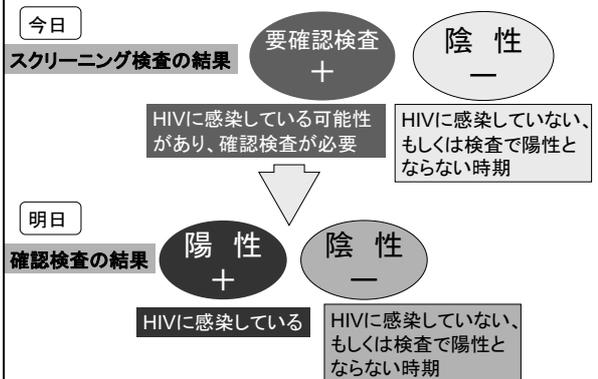
- ◆ 結果はすべて個別に医療者から本人に直接伝えます
- ◆ 検査結果を本人以外の方に知らせることはありません

結果通知担当者とカウンセラーなどの相談担当者は  
検査結果とあなたの顔を両方見ることになります。

### 検査の流れ



### HIV検査でわかること



### 感染機会があってから、検査で判定できるまで

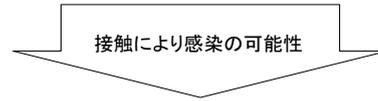
HIVに感染しても、血液検査ですぐに「HIV陽性」の結果となるわけではなく、ある程度の時間がかかります。

ごく最近に感染の可能性がある行為があれば、感染していても今回の検査では「HIV陰性」の結果となることがあります。

HIVに感染してから4週間以内で検査結果が「HIV陽性」となると考えられていますが、個人差がありますので、感染の可能性がある機会から8週間経って「HIV陰性」であれば感染していないと判断します。

### HIV感染の考え方

HIVを含む血液・精液（先走り液も）・膣分泌液



粘膜・傷口（性器・直腸内・膣内・口腔内）

例) アナルセックス：直腸粘膜の出血→ペニスの先・尿道  
精液→肛門・直腸粘膜  
例) 注射器具共用：血液→血管内

### HIV感染とエイズの関係

検査で+だったら、エイズなの？

このHIV検査はHIVに感染しているかどうかを調べるものです。

エイズを発症しているのかどうか、すぐに治療が必要なのかどうかは判定できません。

HIVに感染し、体の免疫力が壊され、様々な病状が現れる状態になった時にエイズと診断されます。

### 本日 要確認検査とわかったら？

- ◆明日午後に最終結果をお伝えしますので、近隣会場まで来ていただく必要があります。
- ◆結果通知会場で相談を利用することができます。
- ◆本日21時まで電話相談を実施しています。

### 明日 HIV陽性とわかったら？

- ◆まず現在の身体状況を知る必要があります。
- ◆医療者が情報提供し病院の選択などのお手伝いをします。紹介状をお渡します。
- ◆費用や保険証のことなど、病院へ行くにあたっての心配についても明日相談できます。
- ◆12日～16日夜に電話相談を実施しています。

### HIV陽性とわかったら？

- ◆日本では、HIVとともに生活していくための医療が整っています。早めに感染がわかれば、コントロールしながら長期的に付き合っていく病気になっています。
- ◆医療費の個人負担が軽減される制度があります。

## 採血について

今日の検査は血液について行います

- \* 看護師が採血します
- \* 採血量は約7ccの採血管1本分です

注射器等の器材は使い捨てです

注射針や採血について特に配慮が必要な方は事前にお申し出ください。

採血後は止血のスペースでしばらくご休憩ください。

## 結果のお知らせについて

採血してから約1時間後に  
北区保健福祉センターへ

検査結果は必ず聞こう

結果引換証を忘れずに

「要確認検査」結果だった場合  
明日の結果受取時間の予約をします

\* 検査結果の記載された用紙はお渡しいたしません。

## 5分間アンケートについて

このアンケートは厚生労働科学研究事業(エイズ予防のための戦略研究)による調査で、エイズキャンペーンの向上を図る上で必要な情報を集めることを目的としているものです。

詳細についてはアンケートの説明をお読みの上、アンケートへのご協力をお願いします。

採血後に記入場所で記入し、封筒に入れて、回収箱へお願いします。

## 本日相談できます

### ◆相談内容の例

感染に関連する行為について  
今日検査を受けるかどうか  
今までの気をつけ方でいいのか  
自分にあった今後の予防のしかた  
受検動機  
必要性に応じた関連機関の紹介

利用希望の方は相談受付テントへ

## 緊急連絡先

緊急のお問い合わせなどは  
検査結果引換証にある電話番号まで

## 受検意思の確認

今日の検査を受けますか？

検査結果引換証に○をつけてください。

受けます

受けません



採血待合へ



検査場入口で  
PLuS+チケットの払戻をします

## 「HIV迅速検査会MaQ@PLuS+FINAL」のご感想をお聞かせください。

この検査会を利用した方からの感想等をお聞きし、検査会の評価をすることで今後の参考にさせていただきたいと思っておりますのでご意見・ご感想をお寄せください。

いただきました内容に関しては、個人が特定されない形でまとめて、関西地域におけるゲイ・バイセクシュアルのための検査環境充実に向け、活かしていきたいと考えています。どうぞよろしくご願ひ致します。

MASH大阪／エイズ予防のための戦略研究

### - 今回の検査会についておうかがいします。あてはまる□にチェックしてください。-

問1 これまでにHIV検査を受けようと思ったことがありましたか？

- 0□ ない 1□ ある

問2 これまで(今回含まず)に、HIV検査を受けたことがありますか？

- 0□ ない→問4へ 1□ ある→これまでに  回

問3 過去1年間(今回含まず)に、HIV検査を受けたことがありますか？

- 0□ ない 1□ ある→過去1年間に  回

問4 今回、HIV検査を受けようと思った理由は何ですか？(あてはまるものすべてに✓)

- |                         |                       |
|-------------------------|-----------------------|
| 1□ 自分も感染する可能性があるから      | 2□ これまでに検査を受けたことがないから |
| 3□ ただ単に感染しているかどうか知りたいから | 4□ 安いから               |
| 5□ 迅速検査ですぐに結果がわかるから     | 6□ 友人に誘われたから          |
| 7□ 新しい恋人やパートナーができたから    | 8□ イベントのついでに受けられたから   |
| 9□ その他( )               |                       |

問5 今回の検査で、わかりにくかったものはありますか？

a) 検査の手順について

- 1□わかりやすかった 2□ややわかりにくかった 3□非常にわかりにくかった 4□説明がなかった

b) 検査結果の受取方法について

- 1□わかりやすかった 2□ややわかりにくかった 3□非常にわかりにくかった 4□説明がなかった

c) 検査結果お知らせ時の説明について

- 1□わかりやすかった 2□ややわかりにくかった 3□非常にわかりにくかった 4□説明がなかった

問6 今回の検査の満足度をお聞きします。

- |                          |       |         |       |
|--------------------------|-------|---------|-------|
| a) 話し方・言葉づかいはどうでしたか？     | 1□ 満足 | 2□ やや不満 | 3□ 不満 |
| b) 質問しやすい雰囲気についてはどうでしたか？ | 1□ 満足 | 2□ やや不満 | 3□ 不満 |
| c) プライバシー保護についてはどうでしたか？  | 1□ 満足 | 2□ やや不満 | 3□ 不満 |
| d) 安心できる雰囲気についてはどうでしたか？  | 1□ 満足 | 2□ やや不満 | 3□ 不満 |
| e) 受付から採血までの待ち時間はどうでしたか？ | 1□ 満足 | 2□ やや不満 | 3□ 不満 |
| f) 結果お知らせの待ち時間はどうでしたか？   | 1□ 満足 | 2□ やや不満 | 3□ 不満 |
| g) 結果お知らせのときの対応はどうでしたか？  | 1□ 満足 | 2□ やや不満 | 3□ 不満 |

問6-1 問6で不満があった場合、その理由は何ですか？

( )





～HIV 陽性（+）の結果について～



HIV 迅速検査会 MaQ@PLUS+ FINAL  
2010年10月10日(確認検査結果の通知は11日)

- ◆「HIV 陽性」の意味◆  
「HIV 陽性」という検査結果は、あなたの体の中に HIV というウィルスがいることを意味しています。感染をそのままにしておくと次第に免疫機能が低下してきて、日和見感染症にかかる可能性が高まります。現在の抗 HIV ウィルス治療は、免疫機能の低下を抑えることができます。一旦低下した免疫機能の回復も期待できます。陽性とわかれば医療機関を受診して自分の免疫状態（CD4 など）を知ることが大切です。
- ◆自分の免疫状態を知る◆  
HIV に感染していることがわかって病院に行くとき、詳しい血液検査がおこなわれます。血液中で免疫を担当しているのが「白血球」ですが、その中で免疫をコントロールしているのが「CD4 陽性リンパ球＝CD4」と呼ばれる細胞です。通常は血液 1μl (mm<sup>3</sup>) 中に 700～1500 個程度ありますが、HIV に感染すると数年以上かけてゆっくりに減少し、おおよね 200 以下になると「日和見感染症」にかりやすくなります。CD4 は現在のあなたの免疫状態を評価し、抗 HIV ウィルス治療の開始が必要かどうかを判断する重要な指標です。

◆白血球・リンパ球・CD4◆



\*\*\*HIV 感染症の治療\*\*\*

- ◆抗 HIV ウィルス治療薬◆  
1996 年以降、体の中で HIV が増えるのを抑える有効な薬が次々に開発され、現在 20 種類以上の薬が使用できます。このうち 3～4 種の薬を組み合わせて内服する「多剤併用治療」がおこなわれるようになり、AIDS 発症率や死亡率は大きく減少しています。しかし、現在の抗 HIV ウィルス治療では、体内から HIV を完全になくすることは難しいと考えられています。
- ◆抗 HIV ウィルス治療の開始時期◆  
HIV 陽性の人すべてに抗 HIV ウィルス治療が必要なわけではありません。しかし、CD4 があまり低下しないうちに治療を開始した方が免疫機能を保つという面で有利だけでなく、HIV 関連疾患以外の疾患のリスクも減らすことができますと考えられています。CD4 の結果により、ガイドライン（治療指針）に基づいた内服治療が勧められることとなります。
- ◆現在の CD4 が高い場合◆  
CD4 が高い場合、3ヶ月に 1 回程度の定期的な血液検査で経過をみるようになります。CD4 が低下するスピードは個人差が大きいため、定期的な検査をしなければ治療開始のタイミングが遅れて免疫機能の回復に時間がかかったり、日和見感染症を発症する可能性があります。
- ◆HIV 感染症診療拠点病院◆  
全国に 360 余りの「拠点病院」・各都道府県に「中核拠点病院」・8 つの地方に「ブロック拠点病院」（近畿は国立病院機構大田医療センター）が整備されており、これらの医療機関ではレベルの高い HIV 診療が行われています。主要な拠点病院についての確かな情報を提供します。
- ◆医療費◆  
最初は健康保険を利用して診療を受けることになり、通常は医療費の 3割が自己負担となりますが、抗 HIV ウィルス治療が始まると医療費の助成制度が利用できます（所得に応じた自己負担あり）。多くの病院で MSW（医療ソーシャルワーカー）が相談に応じています。健康保険や助成制度を利用することでプライバシーが漏れる心配はありません。

\*\*\*HIV と生活\*\*\*

- ◆これまでの生活を基本的に変える必要はありません。◆  
これまでも生活は基本的に変わらない、というものはありません。感染がわかった多くの人が、それまでと変わらず仕事や学業を続けています。職場や学校で HIV 陽性であることを表明している人もいますが、陽性であることを伝えなければならぬというような義務はありません。
- ◆だれに伝えるか◆  
HIV 陽性の結果を、いつ誰に伝えるかということは、よく考えて決めるほうがよいでしょう。セックスのパートナーには結果を伝えて HIV 検査を勧める必要がありますが、急ぐことはありません。また、信頼できる人に伝えて支援を得ることも大切ですが、いずれもあなた自身が HIV のことを十分理解してからでも遅くないと思います。
- ◆セックス◆  
HIV はセックス以外の日常的な接触で感染することはありません。セックスによって相手に HIV を感染させる可能性があり、また、セックスによってあなた自身が他の性感染症に感染する可能性もあります。このような感染を防ぐためには、性感染症がどのように感染するのかよく理解し、あなたに合った方法を見つけることが大切です。
- ◆カウンセリング◆  
病院によっては HIV 専門のカウンセラーがいますが、あなたが受診した病院に専門のカウンセラーがいない場合には、「派遣カウンセリング制度」を無料で利用することができます。カウンセリングを受けたくなった時は主治医に相談してください。また、陽性者のグループや陽性者を支援する団体もありますので、ご希望に応じて紹介します。
- ◆電話相談◆  
毎週水曜日の 19 時～21 時、「サポートプロジェクト関西」が、「HIV 陽性とわかった人のための電話相談」を実施しており、匿名で相談することができます。その他の相談機関についても、ご希望があれば紹介します。

## 紹介状

\_\_\_\_\_先生

このたび、大阪地域における HIV 感染拡大防止のための活動の一環として、HIV 迅速検査会 MaQ@PLuS+ FINAL を 2010 年 10 月 10 日、11 日に大阪市北区内にて実施しました。大阪府立公衆衛生研究所における検査で下記の結果となり、診療が必要であると判断されましたので、本人との検討の結果、貴院への受診をお勧めしました。

「感染症の予防及び感染症の患者に関する医療に関する法律」12 条に基づく報告に該当する HIV 感染症について、**報告は行っておりません**。先生からご報告いただきますようお願い申し上げます。

また、紹介者の受診の有無について確認致したく、受診回答書を同封致しますので、お手数おかけしますが、ご返信（本人の氏名ではなく受検番号でのご返信で結構です）頂きますようお願い申し上げます。

受検番号： MaQ-\_\_\_\_\_

### HIV 検査結果：

スクリーニング検査（イムノクロマトグラフィ法）	<input type="checkbox"/> 陰性、	<input type="checkbox"/> 陽性
スクリーニング検査（PA 法）	<input type="checkbox"/> 陰性、	<input type="checkbox"/> 陽性
確認検査（ウエスタンブロット法等）	<input type="checkbox"/> 陰性、	<input type="checkbox"/> 陽性

紹介医師氏名：\_\_\_\_\_

紹介状記載日：2010 年 10 月 11 日

巡回診療管理医師氏名： 古林 敬一

所属医療機関名：そねざき古林診療所

大阪市北区曾根崎 2-5-24 石見ビル 3F Tel.06-6355-4866

\*この HIV 迅速検査会 MaQ は、MASH 大阪主催、大阪市保健所、大阪府立公衆衛生研究所、特定非営利活動法人 CHARM、特定非営利活動法人関西エイズ対策協議会の協力で、そねざき古林診療所の巡回診療として実施したものです。

検査実施会場となる PLuS+ FINAL は、厚生労働省エイズ予防のための戦略研究、大阪市保健所 個別施策層向けエイズ予防啓発事業に基づき実施したものです。

検査会に関するお問い合わせ先は、HIV 迅速検査会 MaQ@PLuS+FINAL 検査運営担当 岳中美江まで

Email:mie@charmjapan.com tel:06-6354-5901 (チャーム内)

## 受 診 回 答 書

大阪市北区曾根崎 2-5-24 石見ビル 3F  
そねざき古林診療所  
古林 敬一 先生

HIV 迅速検査会 MaQ@PLuS+ FINAL 紹介医師名 \_\_\_\_\_ より

医師名 \_\_\_\_\_ 宛に紹介のあった

受検番号 \_\_\_\_\_ MaQ- \_\_\_\_\_ は

\_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日に当院を受診されましたので、報告いたします。

報告年月日 : \_\_\_\_\_

医療機関名 : \_\_\_\_\_

医師氏名 : \_\_\_\_\_

\*この HIV 迅速検査会 MaQ は、MASH 大阪主催、大阪市保健所、大阪府立公衆衛生研究所、特定非営利活動法人 CHARM、特定非営利活動法人関西エイズ対策協議会の協力で、そねざき古林診療所の巡回診療として実施したものです。

検査実施会場となる PLuS+ FINAL は、厚生労働省エイズ予防のための戦略研究、大阪市保健所 個別施策層向けエイズ予防啓発事業に基づき実施したものです。

検査会に関するお問い合わせは、HIV 迅速検査会 MaQ@PLuS+ FINAL 検査運営担当 岳中美江まで

Email:mie@charmjapan.com tel:06-6354-5901 (チャーム内)

## 【結果通知担当者のマニュアル】

### 結果通知担当者の役割

検査結果を伝え、結果の意味を利用者にわかりやすく伝えることが一番の役割である。HIV 陽性結果であった場合、医療機関についての情報を提供し、受診について自己決定できるように支援する。HIV に感染しているとわかることが今までの人生を否定するものではないことが利用者に伝わるよう対応し、医療者との信頼関係を作ることが大きな役割となる。また、必ずカウンセラーと連携して対応する。HIV 陰性結果の場合、受検のきっかけになった行動の振り返りを支援し、感染リスク軽減に向けた行動変容のきっかけになるように支援する。また、必要に応じて個別相談を案内する。

### 担当者について

医療従事者（医師・看護師・保健師）が担当

スクリーニング検査結果（10日）：陰性は保健師及び医師が担当

要確認検査結果は医師が担当

確認検査結果（11日）：医師が担当

実行委員会で定めたマニュアルに沿って担当することに賛同した人が担う

### 10日の結果通知（スクリーニング検査結果の通知）

#### 基本手順

- ① スタッフに案内され、受検者が入室する。結果セットをスタッフから受け取る。
- ② 担当者は、職種と名前を自己紹介する。
- ③ 検査結果引換証と検査結果用紙の番号が一致していることを受検者と一緒に確認する。
- ④ 封筒を開封し、ただちにわかりやすい言葉で結果を伝え、その意味を説明する。  
HIV についての説明には結果お知らせパンフレットを使用し、受検者全員に渡す。  
(持ち帰りたくない人には無理をしない)
- ⑤ 必要に応じてカウンセリングや個別相談を案内する。
- ⑥ 陰性の場合、結果お知らせ票と結果引換証を全員回収する。  
要確認検査の場合は、結果お知らせ票を回収する。結果引換証は確認検査結果通知時間を記入して本人に返却する（後述）。  
(イベント検査の性質上、結果票の見せあい等の状況を作ることを避けるため)
- ⑦ 受検者が退室後、受検番号・時間・簡単な内容を記録用紙へ記入する。  
\*部屋の稼働状況は、受検者が部屋番号札をアンケート回収所に返すことでオペレーション室で把握する

#### ☆スクリーニング検査結果の意味と説明方法について☆

スクリーニング検査結果は陽性か陰性と記される。陰性(-)は、8週間前の時点で HIV に感染していなかったという結果である。陽性(+)の場合は、「要確認検査」という結果であり、確認検査を実施することで「偽陽性」をはぶき「真の陽性」を判定する。イムノクロマトグラフィ法にて陽性判定だったものについては PA 法の検査も追加して実施され「偽陽性」の割合は最大限減らされる。

「要確認検査」の場合は、受検者に対して「HIV に感染している可能性があり、さらなる検査が必要でその結果がわかるのは明日である。明日また結果を受け取りに来てほしい。その際に病院の情報をお伝えしたり紹介状をお渡ししたりする」という趣旨の説明をする。明日の確認検査結果受け取り及び受診につなげることがとても重要である。

### **要確認検査結果時の手順（上記④⑤の部分）**

結果をわかりやすい言葉で伝え、受検者が意味を理解していることを確認する。

「HIV に感染している可能性があり、さらなる検査が必要でその結果がわかるのは明日である。明日また結果をお隣の北区民センターに受け取りに来てほしい。その際に病院の情報をお伝えしたり紹介状をお渡ししたりする」という趣旨の説明をする。本日の検査のみでは本当の陽性ではない場合もあるため、さらなる検査が必要であるということも伝える。

ここでは明日の結果を受け取りにくることにつなげることが大変重要である。

同行者の有無、今どのくらい時間が取れるかを確認する。

結果お知らせパンフレットに沿って、HIV の基礎知識を説明する。

明日陽性とわかった場合にはどうなるかについて、本人の状況や様子をみながらどこまでの説明にするか配慮しながら説明する。（明日にならないとはっきりわからないなら明日聞きたいという人もいるかもしれないし、陽性だったらどうなるのか詳細に聞いて帰りたい人もいるかもしれない）

明日の結果受け取りの予約をとる。

オペレーション室に電話をして空き状況を確認して、本人の希望を聞いて決める。

**結果引換証に予約時間を記入して本人へ返し、明日必ず持参するよう伝える。**

本日相談をすることが可能であることを伝える。

本人の希望があればカウンセラーにつなぐ（オペレーション室に電話をする）。

明日結果を受け取った後も相談することが可能であることを伝える。

カウンセラーと交代したらスタッフ控室へ行く。

相談を希望しない場合には；

受検者が安全に帰宅できるかどうかを確認する。イベント会場に戻ることも考えられる。

本日、要確認検査とわかる人のために電話相談があることを伝える。

結果お知らせ票を回収する。

\*誘われて断れなかったなどの理由で、すでに陽性とわかっている人も受検しているかもしれないことを認識しておく。確認検査結果を受け取りに来るかどうかは本人の決定にまかせる。

本人からそう伝えられた場合は受検番号を控え、後でオペレーターに伝える。

### **HIV 陰性結果時の手順（上記④⑤の部分）**

結果をわかりやすい言葉で伝え、受検者が意味を理解していることを確認する。

HIV 検査が初めてか、もしくは最後に検査してからどのくらいかをたずねる。

ウインドウピリオド（6～8 週間）については「HIV に感染してもすぐには(+)の反応がでるわけではなく、(+)の反応がでるまである程度時間がかかります。従って、ごく最近感染の可能性のある行為があった場合には、この（－）という結果は確実とはいえません」といった説明する。この期間についての専門的な説明は避ける。

受検のきっかけとなった行為について、「話せる範囲で構いませんので、検査を受けに来たきっかけについて聞かせていただけますか」といった表現で具体的に聞き、その行為による HIV 感染のリスクを評価する。

感染の可能性のある行為があった時期を聞き、再検査の必要を検討する。

これまでになされてきた感染リスク軽減の工夫について聞き、今後どんなリスク軽減方法が可能かを一緒に考え、実行できるような支援をする。必要に応じて個別相談など適切なサービスを紹介する。

\*「コンドームをつけましょう」という一般的なメッセージは受検者自身の感染リスクから目をそらすことになる場合がある。

また、陰性結果が継続しているリスク行動を正当化するものにならないように「これまでと同じように」などの不確かなコメントは避ける。

- 本人が相談利用を希望する場合には、オペレーション室に電話をして、相談員と交代する。
- 「これはHIVについてまとめたパンフレットです。目を通しておいて下さい」と言って結果お知らせパンフレットを渡す。(もらいたくない人には無理に渡さない)
- 結果お知らせ票および結果引換証を回収する。

## 11日の結果通知 (確認検査結果の通知)

### 基本手順

- スタッフに案内され、受検者が入室する。結果セットをスタッフから受け取る。
- 担当者は、職種と名前を自己紹介する。
- 検査結果引換証と検査結果用紙の番号が一致していることを受検者と一緒に確認する。
- 終了時には結果引換証を全員から回収する。

### 陽性検査結果時の手順

- 結果をわかりやすい言葉で伝え、受検者が意味を理解していることを確認する。
- 昨日どのくらい説明を聞いたのか、また本人の理解を確認する。
- 同行者の有無、今どのくらい時間が取れるか確認する。
- 説明した内容を持ち帰って読み返せるように、結果お知らせパンフレットに沿って、HIVの基礎知識を説明する。
- 受検者が受診しやすい拠点病院を選択できるように情報提供する(リストを参照)。受診予定医療機関が決まったら紹介状を作成し、受診の方法を具体的に説明する。医療機関が決まらない場合は、宛名がない紹介状にしてもよい。
- 紹介状・確認検査結果用紙・受診回答書・返信用封筒(受診回答書返信用)が入った封筒を受検者に渡す。
- これまでの性行動やセックスパートナー等について話せる機会を提供する。感染予防に関する「指導」を行わない。
- 本日相談をすることが可能であることを伝える。  
本人の希望があれば、カウンセラーにつなぐ(受付に電話をする)。
- カウンセラーを希望しない人に対しては、結果セットに入っている資料を用いながら、病院での相談先及び病院以外のサービスについての案内をする。  
また、受検者が安全に帰宅できるかどうかを確認する。
- 結果引換証を回収する。

- \* 陽性結果後担当のカウンセラーが待機しており、基本的には医師とカウンセラーが連携して対応する。ただし、本人がカウンセラーに会うことを希望しない場合はこの限りではない。その場合は、医師がその役割を補う。
- \* 医療機関については、詳細を検討してから決定した方がよさそうな場合は、カウンセラーと再度検討してもらった上で決定し、医師が戻って紹介状を記入して渡す場合もある。
- \* イベントの性質上、誘われて断れなかった等の理由で、すでに陽性とわかっている人も受検しているかもしれないことを認識しておく。本人からそう伝えられた場合は受検番号を控え、後でオペレーターに伝える。
- \* 発生动向届は、受診先の医療機関に依頼するため記載の必要なし。

### 陰性結果時の手順 (10日の陰性結果時の手順参照)

- 陰性の場合でもカウンセラーの利用は可能。  
本人の希望があれば、カウンセラーにつなぐ(受付に電話をする)。

## 【カウンセラーのマニュアル】

### カウンセラーの役割

HIV 検査結果（要確認検査及び）陽性を受け取った利用者に対し、心を含めた環境の準備が整った上で受診につながるよう支援することが役割。HIV に関する本人の理解を確認し、現在の治療情報や受診に必要な情報を具体的に提供する。その上で、利用者と共に今後について話し合う。

### 担当者について

HIV 陽性結果後の対応経験のあるカウンセラーが担当する  
マニュアルに沿って担当することに賛同した人が担う

### 10日のカウンセリング（要確認検査結果をもらった人が対象）

#### 要確認検査結果の方への医師からの説明内容

- 医師は結果を伝え、「HIV に感染している可能性があり、さらなる検査が必要でその結果がわかるのは明日である。明日また結果をお隣の北区民センターに受け取りに来てほしい。その際に病院の情報をお伝えしたり紹介状をお渡ししたりする」という趣旨の説明をしている。「本日の検査のみでは本当の陽性ではない場合もあるため、さらなる検査が必要である」ということも伝えてある。
- 医師は結果お知らせパンフレットに沿って、HIV の基礎知識を説明している。  
明日陽性とわかった場合にはどうなるかについて、本人の様子をみながらどこまでの説明をするか配慮しながら説明している。
- 医師は要確認検査結果を受け取った人に対して、医師の説明後に相談利用が可能であることを案内する。

### カウンセラーの手順

- スタッフ控室に待機しておく。
- 呼ばれたら、医師と交代する（医師からの連絡を受けた人から声がかかる）。
- ① 受検者の待つ部屋に入室したら、物理的な相談場面の確保と利用者の状態把握を行なう。
  - ・担当者の自己紹介をする
  - ・今どのくらい時間が取れるか、また同行者の有無を確認する。
    - 時間が取れない場合は、要点をしぼって手短かに話をし、今後相談可能なところを紹介する。
    - 時間は取れるが同行者がいる場合は、同行者へしばらく時間がかかることをどう説明するかをまず話し合う。
  - ・「先生の話はどうでしたか」「今一番気になることは何ですか」などきっかけの声かけをする。
    - 利用者が感情を吐露する場合は、担当者の価値観で解釈せず傾聴する。
    - 利用者が沈黙している場合は、利用者の状況に合わせて対応する。質問が開始したら話し合える状態になってきたことを目安と考える。
- ② 具体的な相談に入るにあたり、利用者の質問を軸に対応していく。その際、必要に応じて結果お知らせパンフや適切な資料を活用し（利用者へ渡してある結果セットに入っている）利用できるサービス等の情報提供を行なう。  
利用者により相談内容は異なるが、陽性の可能性はあるが明日までわからないという結果についての気持ちの受け止めや、HIV 感染症・エイズに関する理解についての確認、もし陽性だったらどうなるのかなどが中心事項になることが考えられる。  
最初にかかる医療費、使用できる制度などについて資料を参照しながら回答できるところは回答し、はっきり回答できない部分は、明日結果が陽性だった場合には、再度こうした相談を利用してもらえらることを伝える（11日はワーカーによる受診前相談も利用でき、そこで個人に合わせた情報提供が可能）

③ 他に質問はないか確認する。本日、要確認検査結果を受け取った人のための電話相談があることを伝える（資料：サポート情報）。質問がなければ、現実に近いけるために、会場を出た後のことについて軽く話をする。

\*イベント会場に戻る利用者もいるかもしれない。

\*結果お知らせ票は全員回収（医師が回収していなかったら、カウンセラーが回収）

\*要確認検査結果をもらった人は結果引換証（翌日の予約時間が医師により記載されている）を持ち帰り翌日持参する。

④ 利用者が退室したら、11日対応するカウンセラーに引き継ぎたい内容を主に記録し、スタッフ控室に戻る。

\*すでに陽性とわかっている人も受検しているかもしれないことを認識しておく。

本人が話してくれた場合には受検番号を控え、後でオペレーターに伝える。

翌日に確認検査結果を受け取りに来るかどうかは本人の決定にまかせる。受け取りに来る場合は、他の受検者と同じ流れで対応する（予約など）。可能そうであれば、受検した理由などを含めて話をし、現在必要なサービスなどを利用してきているかどうかを確認する。

## 11日のカウンセリング（確認検査結果が陽性だった人が主な対象）

### 要確認検査結果が陽性の方への医師からの説明内容

医師は結果を伝え、受検者が意味を理解していることを確認する。

医師は結果お知らせパンフレットに沿って、昨日どこまで話を聞いている確認しながらHIV/AIDSの基礎知識を説明している。

医師は受検者が受診しやすい拠点病院を選択できるように情報提供している（資料：病院リスト）。

受診予定医療機関が決まったら紹介状を作成し、受診の方法を具体的に説明している。

医師は紹介状・確認検査結果用紙・受診回答書・返信用封筒（受診回答書返信用）を入れた封筒を受検者に渡してある。

医師はこれまでの性行動やセックスパートナー等について話せる機会を提供している。

感染予防に関する「指導」を行っていない。

医師は本日相談をすることが可能であることを伝えている。

\*陽性結果後は、基本的には医師とカウンセラーが連携して対応する。ただし、本人がカウンセラーに会うことを希望しない場合はこの限りではない。その場合は、医師がその役割を補う。

\*医療機関については、詳細を検討してから決定した方がよさそうな場合は、カウンセリングでも再度検討してもらった上で決定し、医師がもどって紹介状を記入して渡す場合もある。

### カウンセラーの手順

スタッフ控室で待機。呼ばれたら、受検者の待機する部屋に行き医師と交代する。

① 受検者の待つ部屋に入室したら、物理的な相談場面の確保と利用者の状態把握を行なう。

・担当者の自己紹介をする

・今どのくらい時間が取れるか、また同行者の有無を確認する。

時間が取れない場合は、要点をしぼって手短かに話をし、今後相談可能なところを紹介する。

時間は取れるが同行者がいる場合は、同行者へしばらく時間がかかることをどう説明するかをまず話合う。

・「先生の話はどうでしたか」「今一番気になることは何ですか」などきっかけの声かけをする。

利用者が感情を吐露する場合は、担当者の価値観で解釈せず傾聴する。

利用者が沈黙している場合は、利用者の状況に合わせて対応する。質問が出始めたら話し合える状態になってきたことを目安と考える。

② 具体的な相談に入るにあたり、利用者の質問を軸に対応していく。その際、必要に応じて結果お知らせパンフや適切な資料を活用し（利用者に渡してある結果セットに入っている）院内多職種や病院以外の利用できるサービス等の情報提供を行なう。利用者により相談内容は異なるが、下記については中心事項として対応する。

□病気の理解・受け止め

□受診について

1. 病院選択

- ・医師の説明で病院が既に決定している場合は、本人の理解を確認し、初診手順の手順等を詳細に説明する。
- ・病院が決定していない場合は、本人の状況や課題を踏まえた上で複数の拠点病院について具体的な情報提供（課題について相談できる担当者があるかどうか等も含め）をする。最終的には自己決定を支援する。
- ・医師と決定した病院を変更したい場合は、医師に相談し紹介状を変更する。

2. 受診時期

- ・すぐに受診すること、しないことのメリットやデメリットを話し合い、最終的には自己決定を支援する。

3. 受診意思

- ・受診への迷いがある場合や受診拒否をしている場合は、そのことについて話し合う。可能であれば今後利用できる相談機関（民間電話相談、病院の匿名受診前相談、大阪市専門相談等）を紹介する。

4. 受診のハードル

- ・話している中で受診したくてもそこへ向かえない具体的課題がある場合（保険証がない、親の扶養の保険証、受診費用の問題など）には、受診前相談を匿名で利用できる（病院リスト）こととその方法を伝え、また希望であれば本日対面で相談が可能である（ソーシャルワーカー）ことを伝え、本人の希望を聞く。

③ 他に質問はないか確認する。本日陽性結果を受け取った人のための臨時電話相談があることを伝える（資料、12日～16日実施）。質問がなければ、現実に近付けるために、会場を出た後のことについて軽く話をする。

④ 利用者が退室したら、簡単な記録をつけて、スタッフ控室に戻る。

⑤ 受診前相談を希望する場合には、受付に電話をしてその旨を伝える。ソーシャルワーカーが来室したら交代してスタッフ控室へ。記録をする。

\*すでに陽性とわかっている人も受検しているかもしれないことを認識しておく。

本人からそう伝えられた場合は受検番号を控え、後でオペレーターに伝える。

可能そうであれば、受検した理由などを含めて話をし、現在必要なサービスなどを利用できているかどうかを確認する（前日にすでに話しているかもしれないのでそれも確認しつつ）。

\*スクリーニング検査で「要確認検査結果」となり、確認検査で「陰性」となる人の相談への対応もあるかもしれない。

この6～8週間くらいに感染する可能性のある行為があった場合には、今回の検査では感染していることはわからないため、再検査を勧める。

## HIV 迅速検査会 MaQ @ PLuS+ FINAL 報告書

エイズの予防と共生をテーマにした野外イベント PLuS+ FINAL ～For The Next Challenge～』における HIV 迅速検査会の実施について

この検査会は、厚生労働省科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」課題1 首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究（研究リーダー・市川 誠一）に基づき実施された。

発行日 平成 23 年 3 月 10 日

執筆・編集 辻 宏幸 ・ 岳中 美江

発行者 厚生労働省科学特別研究事業「エイズ予防のための戦略研究」課題1 首都圏および阪神圏の男性同性愛者を対象とした HIV 抗体検査の普及強化プログラムの有効性に関する地域介入研究  
（研究リーダー・市川 誠一）

名古屋市立大学大学院看護学

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

TEL 052-853-8089

FAX 052-853-8032